

# ANNUAL REPORT

学校法人日本赤十字学園  
令和6年度事業活動のご報告



学校法人  
日本赤十字学園  
Japanese Red Cross Academy

日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society

# 人道の理念に基づく 「赤十字看護」の 実践者を育むために

学校法人日本赤十字学園 理事長 富田博樹



日本赤十字社における看護師養成事業は、社の創立からわずか9年後の明治19年(1886年)、博愛病院(現・日本赤十字医療センター)の設立をもって本格的に開始された。

この背景には、日本赤十字社の前身の博愛社が、明治10年(1877年)の西南戦争において、敵味方の区別なく傷病兵を救護した経験を通じ、専門的な看護師の育成が不可欠であると痛感された事情がある。

当時、欧米諸国においては、クリミア戦争におけるフローレンス・ナイチンゲールの献身的活動により、戦地医療の質が飛躍的に向上した事例が広く知られており、看護師の専門性と必要性が強く認識されていた。これを受け、日本赤十字社は教育機関と病院を連携させた看護師養成体制を整備した。

戦前には、全国に34校の赤十字看護学校が設立され、高等女学校卒業以上を入学資格とする高い教育水準のもと、看護師の育成が進められた。赤十字看護師は社会からの厚い尊敬を集める存在となった。

戦後においては、昭和22年(1947年)、連合国軍総司令部(GHQ)の指導により、聖路加女子専門学校と赤十字女子専門学校が統合され、「東京看護教育模範学院」が設立された。ここにおいて米国式の看護教育制度が導入され、戦後日本における近代看護教育の礎が築かれ、多くの指導的人材が輩出された。

以後、赤十字看護学校は最大時には全国で40校を数え、130年以上にわたり延べ11万人以上の卒業生を送り出している。ナイチンゲール記章受章者も97名に達している。

また、日本赤十字社は昭和61年(1986年)から平成21年(2009年)にかけて看護大学の設立を進め、令和2年(2020年)日本赤十字看護大学さいたま看護学部<sup>1</sup>の設立により、現在では、全国に6つの看護大学、7つの看護学部、6つの大学院、1つの短期大学、総学生数3,588名を擁する日本最大規模の看護・福祉系教育機関へと発展している。

これらの教育機関は、日本赤十字社の理念「人間のいのちと健康、尊厳を守る」を体現する実践者を育成することを使命とし、学校法人日本赤十字学園のもとで一体的に運営されている。

令和5年(2023年)に策定された『学校法人日本赤十字学園の2040年に向けたグランドデザイン』の実現に向け、現在は第四次中期計画を推進中である。

全大学が参画する各種プロジェクト・委員会・部会に加え、総合経営会議を設置し、学園全体の経営基盤の強化、赤十字病院との連携深化、学生確保に取り組んでいる。

さらに、日本赤十字秋田看護大学(令和7年4月より「日本赤十字東北看護大学」に改称)では、令和6年度に独自に『赤十字マイスター制度』を創設し、教育効果の向上に大きく寄与している。この制度は、今後他の赤十字看護大学にも順次普及させる予定である。

附属研究施設において、創立14年目を迎えた日本赤十字国際人道研究センターと創立5年目の日本赤十字看護大学附属災害救護研究所は、特色ある研究活動を展開し、教育・研究・実践の三本柱を一層強化している。

我々は、『人道の理念に基づく「赤十字看護」の実践者を育成する』という不変の使命のもと、赤十字精神に基づく「赤十字学」の体系化を志向している。

また、全国の赤十字病院・本社・支部等と緊密に連携し、『赤十字教育共同体』を形成しながら、赤十字看護の一層の深化と普及に尽力していく所存である。

今後とも、引き続き格別のご支援とご指導を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。



建学の  
精神

## 「人間のいのちと健康、 尊厳を守るために 力を尽くす人材を育てる」

現実を踏まえて理想を忘れず、今、手元にある苦痛を一つでも  
取り除く努力によって理想に近づく。

これが赤十字の「人道」です。

赤十字の「人道」は、医療や福祉の分野における原点と言えます。

学校法人日本赤十字学園は、赤十字の人道の理念に基づき、  
人間のいのちと健康、尊厳を守る担い手として  
地域で、世界で活躍できる人材を育成します。



## CONTENTS

日本赤十字学園の 看護大学・大学院・短期大学	02
令和6年度の各大学のトピックス	04
2040年に向けたグランドデザイン 日本赤十字学園第四次中期計画	06

### 〈各大学・短期大学の動向〉

● 日本赤十字看護大学	07
● 日本赤十字北海道看護大学	10
● 日本赤十字秋田看護大学 日本赤十字秋田短期大学	12
● 日本赤十字豊田看護大学	14
● 日本赤十字広島看護大学	16
● 日本赤十字九州国際看護大学	18

### 〈事業の概要〉

日本赤十字看護大学附属 災害救護研究所の動向	20
日本赤十字国際人道研究センター の動向	22
学生の動向	24
教育活動の動向	29
研究活動の動向	30
奨学金の受給状況	32

### 〈財務の概要〉

資金収支決算	34
事業活動収支決算	36
貸借対照表	38
財産目録	40
参考(過去5か年の財務データ)	41

### 〈法人の概要〉

学園の沿革	44
学園の組織/教職員の概要	45
役員・評議員一覧/ 理事会・常務理事会・評議員会の 開催状況	46
各大学・短期大学の施設概要	47



## 得られる受験資格・取得資格



看護師



養護教諭  
一種免許



保健師



介護  
福祉士



助産師



## 日本赤十字 広島看護大学

設置：平成12年（2000年）

～“人道”の心で  
人とつながる看護を学ぶ～

	収容定員	入学定員
看護学部 看護学科   	500	125
看護学研究科 看護学専攻 修士課程	20	10
看護学研究科 共同看護学専攻 博士後期課程	6	2



## 日本赤十字 九州国際看護大学

設置：平成13年（2001年）

～ひとりを看る目、その目を世界へ～

	収容定員	入学定員
看護学部 看護学科  	400	100
看護学研究科 看護学専攻 修士課程 	20	10
看護学研究科 共同看護学専攻 博士後期課程	6	2

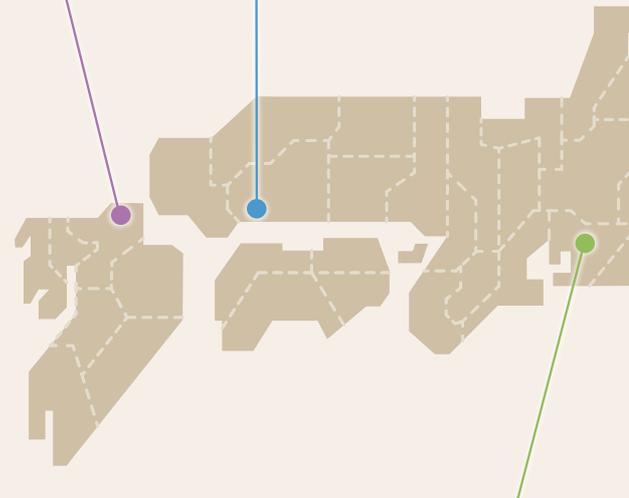


## 日本赤十字 豊田看護大学

設置：平成16年（2004年）

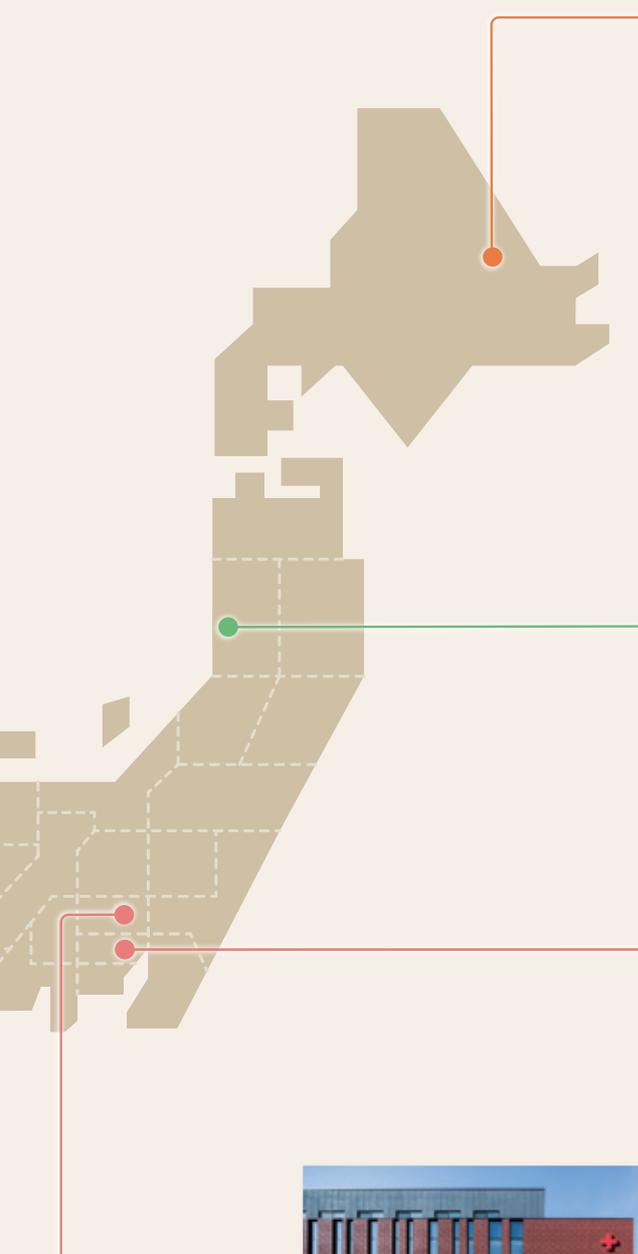
～あなたの夢の実現が、  
誰かを救う一歩になる～

	収容定員	入学定員
看護学部 看護学科  	480	120
看護学研究科 看護学専攻 修士課程	20	10
看護学研究科 共同看護学専攻 博士後期課程	6	2



## [各大学における専門看護師教育課程]

学校名	教育課程
日本赤十字北海道看護大学(大学院)	慢性看護、精神看護
日本赤十字秋田看護大学(大学院)	がん看護、老年看護、精神看護
日本赤十字看護大学(大学院)	がん看護、小児看護、慢性看護、クリティカルケア看護、精神看護、老年看護、災害看護、在宅看護
日本赤十字豊田看護大学(大学院)	小児看護、老年看護、精神看護
日本赤十字広島看護大学(大学院)	がん看護、小児看護、精神看護、災害看護
日本赤十字九州国際看護大学(大学院)	クリティカルケア看護、在宅看護、精神看護、老年看護



## 日本赤十字 北海道看護大学

設置：平成11年（1999年）

～手渡しの看護を～

	取容定員	入学定員
看護学部 看護学科 	400	100
看護学研究科 看護学専攻 修士課程 	32	16
看護学研究科 共同看護学専攻 博士後期課程	6	2



## 日本赤十字 秋田看護大学 日本赤十字 秋田短期大学

設置：平成21年（2009年）

～「生きる」を支える人になる～

	取容定員	入学定員
看護学部 看護学科 	400	100
看護学研究科 看護学専攻 修士課程 	24	12
看護学研究科 共同看護学専攻 博士後期課程	6	2
短期大学 介護福祉学科 	60	30

※令和7年4月1日に日本赤十字東北看護大学・同大学介護福祉短期大学部に名称変更



## 日本赤十字 看護大学

設置：昭和61年（1986年）

～Vision for Humanity  
-人道の実現に向けて～

	取容定員	入学定員
看護学部 看護学科 	540	130 (3年次編入学 10)
さいたま看護学部 看護学科 	320	80
看護学研究科 看護学専攻 修士課程	64	32
看護学研究科 国際保健助産学専攻 修士課程 	30	15
看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程	30	10



### [各大学における認定看護管理者コース]

学校名	教育課程
日本赤十字看護大学(大学院)	看護管理学領域
日本赤十字豊田看護大学(大学院)	看護管理学領域
日本赤十字広島看護大学(大学院)	教育・研究者コース



# 令和6年度の各大学のトピックス

## 日本赤十字 北海道看護大学

### オホーツク地域における医療従事者育成を目的とした包括的連携に関する協定調印式

人口減少が著しいオホーツク地域において保健医療を担う人材の安定確保と資質の向上は喫緊の課題と言えます。本学は地域唯一の看護大学として25年の歴史があり、多くの看護師、保健師、助産師を育成してきました。北見北斗高等学校はSSH事業の指定を受け、優秀な学生が多く集まっています。北見赤十字病院は90年の歴史を持つオホーツク三次医療圏の地方センター病院として、中核を担っています。これら3者が医療従事者育成を目的とした包括的連携協定を締結できたことはとても意義があることです。今後は協定に基づき、次の具体的な事業を実施していきます。

○大学の講義聴講    ○高校へ出張講義    ○相互理解を図るためのネットワーク構築

連携協定により、本学に入学を希望する高校生の大学での学習に対する目的意識や将来に対する意識の向上が図れ、看護師以外の医療従事者を目指す高校生にとっても多職種連携の観点から大変有意義な取り組みになることを期待しています。



オホーツク地域における医療従事者育成を目的とした包括的連携に関する協定調印式

## 日本赤十字 秋田看護大学 / 日本赤十字 秋田短期大学

### 赤十字マイスター認定制度の創設

赤十字の基本原則と行動規範を理解し、国内外で赤十字活動の普及・実践に努め、赤十字に貢献する人材を育てることを目的として、赤十字マイスター認定制度を創設しました。この制度は、学内の赤十字教育委員会が所掌しています。

認定の条件は①指定の赤十字関連科目を全て履修すること、②指定の学内外の赤十字活動（赤十字教育委員会の下部組織である赤十字防災ボランティアステーションに登録して災害時にボランティア活動をする、大学の行事である夏と冬の防災キャンプや赤十字・国際人道教育フォーラム、災害救護訓練等に参加する、学生赤十字奉仕団など赤十字に関するサークルで活動をする、献血や募金活動をする、その他赤十字教育委員会が認める活動に参加する等）を行い、一定のポイントを獲得することです。

今年度の卒業生は、看護学部と介護福祉学科合わせて11名が認定され、学位記授与式で学長から認定書と記念品が贈呈されました。



初めての赤十字マイスター認定者(11名)

## 日本赤十字 看護大学

### 新カリキュラムの開始に伴う看護学導入実習の展開

看護学部では、4月より新カリキュラムが開始になりました。このカリキュラムでは、赤十字の理念に基づき人道の実現を目指した看護を探究し、アクティブ・ラーニングを基盤とした学修を展開し、4年間かけて主体性、探求力、発信力を育むことを目指しています。また、様々な世代や健康状態にある人々の生活を理解する学修からスタートし、医療を必要とする人との生活とその看護に関する学修へと続き、保健医療福祉に関わる多職種の中での看護の機能と役割を学修できるように編成しています。

1年生は5月中旬から、看護学導入実習Ⅰを履修しました。地域の様々な世代や健康状態にある人々と暮らし、健康に関連する身近な問題、地域の人々を支える様々な活動を理解することを目的に、日本赤十字社関連施設と幼保一元施設や地域包括支援センター等で実習を行いました。学生の満足感、教員や実習指導者からの評価はどれも高いものでした。



実習の様子(日本赤十字社埼玉支部)

### 公益財団法人大学基準協会による機関別認証評価を受審

今年度、機関別認証評価を受審し、3月末の認証評価結果において適合判定を得ることができました。今回の受審では「是正勧告」や「改善課題」といった指摘が一切なく、これは本学の教育研究活動及び運営体制が適切に遂行されている証左だと捉えています。

特に今回の機関別認証評価では、内部質保証の仕組みが重点的に審査されましたが、本学では体系的かつ適切に整備され、教育の質を維持・向上させるための取り組みが組織的に運用されていることが認められました。

また、本学が所蔵する貴重な赤十字史料に関する管理・活用の取り組みも特筆すべき長所として高く評価されました。これらの史料は、社会の研究資源として積極的に提供され、国内外の研究者にとって貴重な知的財産となっています。

本学は今後も教育研究活動の充実と発展を目指し、質の保証と向上に努めて参ります。今回の評価結果を糧に、社会に貢献し続ける大学として、更なる飛躍を遂げる所存です。



認定マーク  
(日本赤十字豊田看護大学)

### 情報ネットワークシステムの全面更新を実施

本学では、教育・研究及び業務の情報基盤の信頼性と安全性を向上させるため、10月に情報ネットワークシステムの全面的な更新を実施しました。この更新により、高性能なファイアウォールの導入、仮想基盤やストレージの刷新、統合ID管理システムや監視システムの構築、メール、印刷、証明書発行など各種業務システムの最新化を行いました。特に、システム上からのディプロマサプリメント発行を要件に加え、学生の学修成果をより柔軟に証明できる体制を整備しています。また、証明書自動発行機を導入したことで、各種証明書の取得が迅速かつ容易になり、時間外でも取得可能となったため、学生から喜ばれています。さらに、研究データ基盤を構築し、研究成果の管理・共有を効率的に行えるよう、稼働に向けて調整を進めています。

これらの取り組みにより、教育・研究活動を支える安全で柔軟なICT環境を実現し、学内外の関係者にとって利便性の高い環境を提供しています。今後も、最新の技術を活用し、さらなる情報基盤の強化とサービス向上に努めて参ります。



情報ネットワークシステムの全面更新を実施

### クォーター制の導入

本学では、今年度入学生から、これまでの Semester 制に変えてクォーター制を導入しました。クォーター制を導入することで、集中的な学修が可能となり、一律の定期試験を設けないことにより、試験の点数にとらわれない多様な評価が可能となりました。

多くの学生にとってクォーター制は初めての経験であり、最初は戸惑いもありましたが、学生からは、「小テストが何度もあったことで理解が深まった」や「技術系科目の2コマ続きは、学習内容をより深く理解するうえで効果的であった」といった肯定的な意見が寄せられました。

一方で、「講義科目によっては、2コマ続きの授業では集中力を維持するのが難しいと感じることがあった」という意見もあり、より学びやすいクォーター制にするため、今後も検討を重ねていきます。



クォーター制による講義風景

# 日本赤十字学園の2040年に向けたグランドデザイン

日本赤十字学園は、2040年の社会構造を見据えた長期的かつ積極的なビジョンとして、「学校法人日本赤十字学園の2040年に向けたグランドデザイン」を令和5年12月に策定しました。

## 1 学園の協働プロジェクトとして目指す目標

- (1) 各大学の経営分析等による安定した組織運営
- (2) 赤十字の看護や救護等を探求する「赤十字学」の構築
- (3) 大学を越えた新たな研究の仕組みの構築と看護学研究の推進
- (4) 赤十字看護大学間の国際交流の展開
- (5) 赤十字の特色を生かした入試制度の構築

## 2 各大学が教育共同体として目指す目標

- (1) 赤十字大学が積み上げてきた実践知を基盤とした教育の新たなシステムの構築
- (2) 赤十字病院との連携を推進することによる6大学の看護教育力のさらなる飛躍
- (3) DX推進による共同で利用可能な教育環境の整備
- (4) SDGsのゴールを目指した取り組みの推進

## 3 個々の大学が特色を出して目指す目標

各大学は、機関別認証評価の評価基準を踏まえつつ、赤十字看護大学としての独自色を出し強めていくため、共通の10の目標を設定しました。

# 日本赤十字学園第四次中期計画(令和6年度～10年度)の策定について

学園のグランドデザインの各目標の達成に向けて、令和6年度から5年ごとの期間の中期計画を策定し、学園全体が一体となって実行していきます。

また、第四次中期計画期間(令和6年度～10年度)は、各目標を達成するための基盤作りの重要な期間として位置付けています。

## 1 学園の協働プロジェクトとして目指す計画

- (1) 総合経営会議を設置し、各大学の経営状況の把握・改善を検討し、組織運営を行う。
- (2) 日本赤十字社創設からの看護・救護等活動の実績・経験を検証し、体系化する。
- (3) 赤十字6大学が共同し、研究を実践・教育に活用するための新たな仕組みを構築する。
- (4) 海外の赤十字看護系大学との交換留学・研修・共同研究等の交流を広く展開する。
- (5) 赤十字6看護大学連携併願選抜等入試制度を検証し、必要な改善等を行う。

## 2 各大学が教育共同体として目指す計画

- (1) 赤十字6大学が相互に利用できる教育システムの開発及び大学間の人材交流を行う。
- (2) 赤十字の教育共同体を通して基礎から切れ目のない生涯教育プログラムを開発する。
- (3) 学園全体の教育DX推進計画を策定し、共同で利用可能な教育環境基盤を整備する。
- (4) SDGsのゴールを目指した赤十字6大学共同の取り組みを推進する。

## 3 個々の大学が特色を出して目指す計画

各大学を取り巻く環境は少しずつ異なりますが、共通の計画を掲げました。

グランドデザイン、第四次中期計画の全文についてはこちらをご覧ください。



# 日本赤十字看護大学

設置学部等 看護学部／さいたま看護学部／大学院



広尾キャンパス



大宮キャンパス

(広尾キャンパス) 電話 03-3409-0875 住所 東京都渋谷区広尾4-1-3

(大宮キャンパス) 電話 048-799-2747 住所 埼玉県さいたま市中央区上落合8-7-19



学長

守田 美奈子

令和7年3月にさいたま看護学部では2期生を輩出し、令和2年以降の課題であった2学部1研究科による大学運営が安定期に入って参りました。広尾の看護学部では、令和6年度入学生から新カリキュラムを開始し、1年次の5月から地域の医療福祉施設や赤十字関連の活動を学ぶための導入実習を取り入れました。学生の感想や教員や指導者からは好評価が得られています。さいたま看護学部でも、開設後4年が経過しましたので、カリキュラム運営上の課題を整理し、若干の修正を加えた新カリキュラムの運用を始めました。大学院では、研究や実践の基礎力を高めるためにカリキュラムの大幅な見直しを行いました。修士課程、博士課程共に、幅広い観点から看護を探究できるようコースワークの充実を図り、令和7年4月からの運用に向けて準備が整いました。また、本学では日本看護系大学協議会の教育機関認定を受けて専門看護師教育課程を開設していますが、新たに更新申請を行い8分野全ての承認を得ました。国際交流や大学祭、クラブ活動等も活発に行われています。本学の教育の伝統を大切に引き継ぎながら、さらに新たな改革に向けて進めていきたいと考えております。

## 国際交流事業の展開

コロナ禍の影響で中止していた国際交流事業・短期交換留学を昨年度から順次再開しています。交換留学については、スウェーデン赤十字大学から3名の留学生を受け入れるとともに、スウェーデン赤十字大学、ラ・ソース大学(スイス)へ各3名の学生を派遣しました。また、当該事業において、両キャンパスの留学生受入に係る体制や、派遣学生の選考から出発までのフォロー体制も着実に確立してきています。



留学生受入初日には歓迎会を実施しました



## 成績優秀賞等の表彰

本学では4年間学業に励んだ学生を評価する制度として、GPAの高い学生を表彰する「成績優秀賞」を定めています。今年度は看護学部から6名、さいたま看護学部から3名を選出し、卒業式で呼名・表彰しました。これ以外にも質の高い卒業研究を発表した学生を表彰する「卒業研究優秀賞」や「日本私立看護系大学協会会長表彰」など複数の表彰制度によって真摯に取り組んだ学生を正しく評価することにより、看護学部生の学修意欲向上に努めています。

表彰風景

## S-SAP協定の締結

渋谷区、日本赤十字社医療センター及び本学との三者によって、「S-SAP(シブヤ・ソーシャル・アクション・パートナー)協定」を締結し、これに係る調印式が3月26日に執り行われました。本協定は渋谷区内に拠点を置く企業や大学などと区が協働し、地域の社会的課題を解決していく公民連携制度です。本協定を通じ、三者一体となり、地域の社会的課題の解決により一層取り組んでいく方針を確かなものとなりました。



写真左から、中島淳 院長(日本赤十字社医療センター)、長谷部健 渋谷区長、守田美奈子 学長(日本赤十字看護大学)



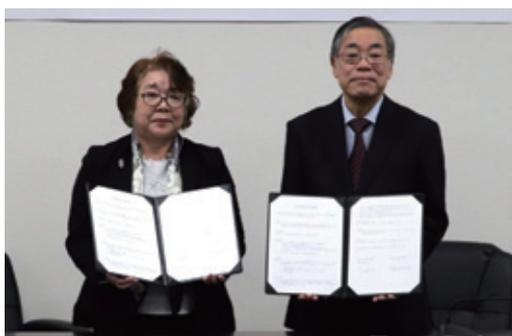
クロー・ルージュ祭



キャロリング

## 高大連携協定の締結

実践女子学園中学校高等学校と高大連携事業に関する協定を締結しました。本協定は、協定校相互間の信頼関係を構築して、学生及び生徒の進学、並びにキャリア構築を支援するとともに、教育・研究に関する相互理解の促進に取り組むことを目的とするものです。12月9日に本協定の締結に係る調印式を本学広尾キャンパスで執り行い、その後両校の現状や連携事業のこれからについて意見交換を実施しました。



守田美奈子 学長(写真左:日本赤十字看護大学)と、湯浅茂雄 校長(写真右:実践女子学園中学校高等学校)

## 大学祭「クロー・ルージュ祭」及びキャロリングの開催

11月に大学祭を隣接する日本赤十字社医療センターのオープンホスピタル、日本赤十字社総合福祉センターの秋祭りと合同で開催しました。学生が企画・運営し、地域の方や高校生など多くの方にご参加いただき、大盛況の大学祭となりました。

また、12月にはこれらの施設の患者様や入居者様に向けてキャロリングを実施、学生は創意工夫して素敵なクリスマスの時間を届けました。

## 公開講座の開催

「自分らしく最期まで生きる」を通年のテーマとし、全2回の公開講座を開催して累計25名の地域住民の方にご参加いただきました。

1回目は、エイジズム(年齢差別)や、世代間・地域間に横たわる問題等についてデータや事例を用いて講義が行われました。



2回目は、ミニ講義と簡単なエクササイズを実施し、身体を動かすことの重要性についてデータと実践の両方を用いて紹介されました。

第2回公開講義では参加者とエクササイズを実施

## オープンキャンパスの開催

8月に来校型のオープンキャンパスを3日間行いました。各日程とも大盛況で合計1,403組/2,594名と多くの受験予定者やご家族が参加されました。在学生も協力したプログラムの中では看護技術体験が最も人気がありました。赤十字看護大学として特徴的と言える災害看護学のブースでは「授業で使用した資料や災害地での支援内容を知れてよかった」「1週間で必要な防災グッズの量を見て驚いた」といった感想を沢山いただきました。



看護技術体験で点滴の体験をしている様子

## 大宮キャンパス

## 国際交流センター学生部会による講演会の開催

ネパール僻地医療に長年貢献されている橋戸健次郎医師をお招きし、1月10日に大宮キャンパスで国際交流センター学生部会主催の講演会「ネパールにおける僻地医療の実際」を開催しました。学生11名、教職員7名の計18名が参加し、写真を交えてネパールの人々の生活や、僻地にある病院での活動について学びました。学生は熱心にメモを取り、質疑応答では多くの質問が寄せられ、終了後も残って質問する姿が見られました。



橋戸健次郎医師(前列中央)をお招きして

## 大学コンソーシアムさいたまりレー講座「キッズカレッジ」の開催



公開講座キッズカレッジの様子

さいたま市内の大学で構成される、「大学コンソーシアムさいたま」後援の市民向け講座『キッズカレッジ』を3月1日に実施し、市内在住の親子15組41名が参加しました。

本学教員が講師を務め、看護師の手洗いのポイントを講義し、機器を用いて手洗い効果を確認しました。

子供はシールで菌の可視化を体験し、保護者も楽しみながら学べる満足度の高い行事となりました。また、本学を知っていただく機会にもなりました。

## 大学祭「プリムローズ祭」の開催

6月2日にさいたま看護学部大学祭「プリムローズ祭」を開催しました。企画には、さいたま市保健所が行う性感染症啓発事業の展示や、日本赤十字社埼玉県支部の協力による災害救護物品の展示を行うなど、学外の行政や団体の方と協力して実施することができました。



プリムローズ祭

## オープンキャンパスの開催

6月に1回、8月に2回の計3回来校型のオープンキャンパスを実施し、高校生等651名、ご家族544名(およびその他3名)の計1,198名が参加しました。在学生も協力した看護技術体験、キャンパスツアーが特に好評でした。参加後のアンケートでは、満足度は3日間で98.5%と高い数値となりました。「皆さん明るく親切で良かった」「設備が整っており、雰囲気がとても良かった」などの声をいただきました。



約40名の学生が応対

## 学生による図書館運営への参画

学生部会TKG(図書館向上グループ)10名による活動のほか、年2回書店で直接本を選ぶ「学生選書ツアー」を実施し保護者会寄付金にて179冊購入。図書館資料充実の一助となりました。今年で3回目となる、紀伊國屋書店さいたま新都心店との共催「日本赤十字看護大学さいたま看護学部イチョシ本フェア2025」には9名が参加。選書ツアーで選んだ本より38冊を選定し、POP作成や店頭での飾りつけを行いました。



ブックフェアの様子

# 日本赤十字北海道看護大学

設置学部等 看護学部／大学院

電話 0157-66-3311 住所 北海道北見市曙町664-1



学長

安酸 史子

今年度は予測を大幅に下回る68名の入学者という定員割れへの対応に腐心した年でした。高校訪問、高大連携の推進、オープンキャンパスの強化、広報活動の強化など大学としてできることを検討し実施してきました。

本学は、赤十字看護をしっかりと教えることを使命として学部教育に力を入れてきました。しかし留年、退学者が多いことが定員割れの原因の一つではないかという反省のもと、及第点に達していない学生をそのまま切り捨てるのではなく、合格点以上に引き上げる努力をこれまで以上に行うよう、学長として教員の教育力強化を喚起しました。

教職員一丸となり、次に挙げる5つの目標を共有しました。

- ①教職員がお互いを思いやり、助け合い、尊重し合う学内のケアリング文化の醸成
- ②日本赤十字北海道看護大学で看護学教育を担っているという教職員の自負意識の高揚
- ③博士課程まで備えた大学として教員個々の研究者としての意識の醸成
- ④厳しさの中にあっても思いやりのある赤十字看護のわざの伝承ができる教育力の向上
- ⑤学生の赤十字への帰属意識の増大

## 厳冬期災害演習2025

1月18日から19日にかけて、15回目となる厳冬期災害演習2025を開催しました。

19日早朝にマイナス19℃と文字通りの厳寒の外気温の中、全体参加者167名、うち宿泊体験者144名でトイレ・キッチン(食事)・ベッド+暖房の4つの要素「TKB+W」を網羅した演習が繰り広げられました。教職員とともに本学災害beatS研究会のメンバーである13名の学生が参画し、演習の実施・運営に大きな力を発揮してくれました。



スチールベッドや段ボールベッドの上に、ソロテントを載せプライバシー空間と温かい空間を提供

## 街路灯設置

本学周辺の賃貸物件には多くの学生が居住しています。平成28年2月には本学の事務局による防犯パトロール隊を結成し、大学周辺の防犯に力を入れているところです。昨今の事件等を踏まえ、学生の防犯意識醸成のため特別講義も実施しています。令和5年1月、近隣道路に歩道が設置されたことにより歩行者が増えましたが、街路灯の設置が無く周囲が暗いことから、12月に計6基の街路灯を本学が設置しました。



街路灯下には、注意喚起として看板も設置

## 内部質保証システムの構築

本学では、各委員会の報告を基にPDCAサイクルを活用し、内部質保証システムを構築しました。計画(P)として運営方針と評価基準を策定し、実行(D)では各委員会が活動を推進しました。評価(C)では実績を分析し、改善(A)として課題解決策を実施しました。これにより、組織運営の透明性と継続的な改善が促進されました。今後も各委員会の連携を強化し、大学運営の質の向上を図ります。

## 福祉避難所協定の締結

北見市と、災害時に要配慮者(医療的ケアが必要な人や重度の障害がある人)を受け入れ、安心して避難生活を送ることができる施設である「福祉避難所」としての使用に協力することについて定めた協定を締結しました。

本学は、医療用ベッドや介助しやすい大きな浴室・非常用発電機を備えており、医療的ケアが必要な人も安心して避難することができます。今後、要配慮者の受け入れを想定した訓練も実施する予定です。



辻市長との面談後、今後の課題や現状について確認し、協定の締結を行いました

## インフルエンザ予防接種の実施

学生サービスの充実及び経済的負担の軽減を図る観点から、本学内診療所において、実習に臨む際に必須となっているインフルエンザ予防接種を実施しました。10月中旬に4回実施し、大学院生、教職員を含めた約300名に接種しました。本学は令和5年度に診療所登録を完了したことにより、予防接種をはじめとする健康管理支援の強化が可能となり、学生の安全と健康を守るための環境整備が一層推進されました。



基礎・成人看護実習室にて、本学教員による予防接種を実施しました

## 出前公開講座、学校連携出前講座

看護開発センターでは、教員が地域に出向く「出前公開講座」を実施しています。生涯学習の機会を提供し、研究成果を還元していくことで、地域との連携をより一層深めたいと考えています。また、小中高生に「赤十字」や「看護」の魅力を感じてもらうため、「学校連携出前講座」を実施しています。いずれも教員の専門性を踏まえ、多彩な講演テーマを用意しています。今年度においては、両講座を計37件実施し、ご好評をいただきました。



出前公開講座の様子



## イルミネーション点灯式

厳しい北国の冬を明るく照らすべく、職員がイルミネーション装置を自作し、本学の講義棟の中で点灯式を行いました。

多くの学生と教職員が集まり、学長の挨拶とカウントダウンで点灯を開始しました。

昨年は、中庭全体にイルミネーションを設置し北国ならではの雪景色とイルミネーションで彩られました。今年は暖かい講義棟内の吹き抜けを利用した大きなツリー型イルミネーションで彩りました。

イルミネーションの下にはトナカイやハートラちゃんも飾られ、赤色や白色に光る約5,000個の発光ダイオードが輝いていました。

学生たちはイルミネーションをバックに写真撮影

# 日本赤十字秋田看護大学 日本赤十字秋田短期大学



設置学部等 (大学)看護学部/大学院 (短期大学)介護福祉学科

電話 018-829-4000 住所 秋田県秋田市上北手猿田字苗代沢17-3



学長

原 玲子

本学は「生きる」を支える人になる”を教育目的とし教育課程を組み立てています。今年度は、本学独自に「赤十字マイスター認定制度」を導入しました。赤十字関連科目と学生が行っているボランティア活動等を評価し、一定の基準を満たした学生を「赤十字マイスター」と認定し学位記授与式で表彰するものです。今年度は11名の卒業生が認定されました。また、コロナ禍にて中止していた「学園祭」を実施し、特別企画としてEXILE/FANTASTICS佐藤大樹さんによるトークショーがあり盛況でした。

9月に秋田、山形の豪雨災害があり災害ボランティア活動を実施し、加えて、能登半島地震から半年を過ぎ、家に帰れない被災者に対し、日本災害看護学会と一緒に避難所支援を行いました。

令和4年度より秋田県の要請を受けて実施している「介護施設等防災リーダー養成研修事業」を継続して行いました。

秋田県社会福祉事業団との協定、秋田県との包括連携協定、明治安田生命(秋田)との包括パートナーシップ協定を結び、地域とのつながりを深めました。

## 秋田県社会福祉事業団と「大雨による洪水被害発生における臨時的避難場所の提供等に関する協定」を締結

秋田県社会福祉事業団が運営する障害者支援施設高清水園と、「大雨による洪水被害発生における臨時的避難場所の提供等に関する協定」を締結しました。この協定は、災害時に高清水園において垂直避難の必要が生じた場合に、一時的な避難施設として本学施設の一部を提供することを目的とするものです。令和5年の秋田県豪雨災害を契機として、近年多発する自然災害から要配慮者の安全を確保するために締結されました。



締結式の様子

## 本格的な長期の施設実習を前に「私のキャリアプラン」を開催



本格的な長期の施設実習に臨む看護学部3年生と介護福祉学科2年生が参加し、対人援助のプロフェッショナルを志す者として、自覚と向上心を高めることを目的とした行事「私のキャリアプラン」を開催しました。

前半は、自分が目指す看護師像、介護福祉士像を紙に書き出して、互いに発表し合い、後半は、体育館でのキャンドルサービスを行いました。学生たちはナイチンゲール像から継承した灯を胸に、自らの成長を誓いました。

キャンドルサービスの様子

## 赤十字のお仕事体験イベント「赤十字キッズタウン」を開催

5月26日に本学体育館を会場に、赤十字のお仕事体験イベント「赤十字キッズタウン」を、本学と秋田県内赤十字関連施設の共催により、開催しました。参加した子供たちは災害時の救護体験や献血業務、看護師などのお仕事体験に真剣に取り組んでいました。救急医療現場で活躍するドクターヘリの見学会では、実際にヘリに搭乗することができ、子供たちをはじめ保護者の皆さんからも大変ご好評をいただきました。

心肺蘇生の模擬体験をする子供たち



## 5年ぶりに「災害救護訓練」を開催

9月18日、19日に本学グラウンドを会場にして、学生343名が参加した「災害救護訓練」が開催されました。地震の発生により、ライフラインが寸断され、建物の倒壊と火災が発生したことを想定し、学生はトリアージ、搬送、応急処置、情報伝達、傷病者の役割を担当し、災害現場での活動を疑似体験することで、災害発生時の救護活動の実際や支援者の役割について学びを深めることができました。



傷病者役の手当を行う学生たち

## 5年ぶりに「AKITA防災キャンプフェス」を開催

秋田魁新報社主催の「2024AKITA防災キャンプフェス」が、本学を会場にして5年ぶりに開催されました。防災に関するあらゆる分野の知恵と知識が結集することで実現したイベントです。アウトドア用品の展示・販売、緊急車両の展示のほか、数多くの体験型ワークショップが軒を連ねました。災害時の新聞の活用方法を学んだり、ビニール袋に米と水を入れてご飯を炊く体験ができ、来場者の関心を引いていました。



緊急車両の展示コーナー

## 5年ぶりに学園祭「カリヨン祭」を開催

9月23日に本学の学園祭「カリヨン祭」が開催されました。学友会を中心に学生一丸となって準備を進め、5年ぶりの復活を遂げました。バンドやダンスパフォーマンス、茶会、展示会、クイズ大会、大声大会など、多種多様な企画・発表により、とても賑やかな「カリヨン祭」になりました。佐藤大樹さん(EXILE/FANTASTICS)を特別ゲストに迎えて行ったトークショーは大いに盛り上がり、体育館に歓声が響きました。

カリヨン祭を楽しむ学生たち



## おしゃべりサロン「日赤でかだろ」を開催(老年看護学実習)

老年看護学実習の一環として、地域の皆さんが誰でも気軽に参加できるおしゃべりサロン「日赤でかだろ」を開催しました。楽しみながら健康への知識を深めることができる催しで、看護学生による血圧測定や健康体操、本学教員による健康ミニ講話を行いました。他にも、握力測定や歩行速度測定によるフレイルテストを行ったり、学生お手製のボールを使用したレクリエーションを行ったりと、盛り沢山のプログラムでの実施となりました。



地域の方の血圧を測る学生たち

# 日本赤十字豊田看護大学

設置学部等 看護学部／大学院

電話 0565-36-5111 住所 愛知県豊田市白山町七曲12-33



学長  
百瀬 由美子

18歳人口の減少、看護系大学の激増の中、赤十字の理念に基づく看護実践力を備えた看護職の育成を継続するために、学生の安定的な確保が必要です。そのために、質の高い看護学教育の実績を地域社会に明示することが重要で、具体的な方法の1つとして第三者評価結果の公表があります。本学は今年度、大学基準協会による機関別認証評価を受審し、適合との認定を受けることができました。特に赤十字看護大学の特徴ともいえる赤十字活動関連の貴重資料の蓄積、展示及び研究活動への活用等を含む教育研究環境については高い評価が得られました。赤十字病院等のご協力による充実した実習指導体制・環境や学生の自主活動、地元の豊田市を中心とした教員の社会貢献活動も本学の強みであり、これらについても良好な評価が得られました。今後はこれらの結果を積極的に広報活動に活かして、赤十字の看護を学ぶ魅力を伝え、選ばれる大学であり続けられるよう教職員一丸となって努力していきたいと思います。今年度の活動の一部を以下にまとめましたのでご覧ください。

## 「史料から見る日本赤十字社の国内災害救護の歴史」のパネル展示



7月の1か月間、献血ルームゲートタワー26とのパネル展示コラボを企画し、「史料から見る日本赤十字社の国内災害救護の歴史」と「能登半島地震被災地支援 学生企画（石川県七尾市物産展・救護活動写真展示）」をテーマとしたパネル展示を行いました。赤十字看護師による初の救護活動が行われた濃尾地震での活動等の紹介とともに、学生サークル「DMAC」による能登半島地震の被災地支援活動についても紹介しました。

パネル展示の様子

## 韓国中央大学校赤十字看護大学とMOU締結

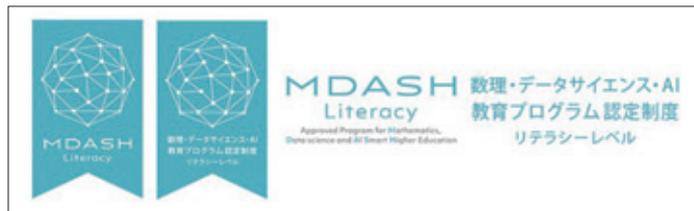
10月31日、本学において調印式が行われ、韓国中央大学校赤十字看護大学との間で、学術交流や学生交流を深めることを目的とした国際交流協定（MOU:Memorandum of Understanding）を締結しました。締結に先駆けて、教員2名が韓国を訪問し、MOUの内容確認や今後の交流プログラムについて協議しました。今後は、両大学の発展に向けてさらなる交流を進めていきます。



韓国中央大学校赤十字看護大学訪問の様子

## 「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」認定

本学看護学部の教育課程における教育プログラム「看護のデータサイエンス」が、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」として認定されました。数理・データサイエンス・AIの基礎的な能力を涵養し、デジタル時代において、社会から求められる人材育成を目指していきます。



数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)ロゴマーク

## インドネシアでの研修プログラム(国際救援看護論実習)



9月1日～8日、本学3年生11名と教員4名が、国際救援看護論実習としてインドネシアを訪問しました。

インドネシアでは、インドネシア赤十字社本社や支部(Banten州支部、Cilegon市支部、Pandeglang市支部)、ポゴール病院を訪問し、国・州・市の特徴や事業について学びました。インドネシアの防災や保健衛生に対するネットワークは目覚ましく発展しており、非常に大きな学びとなりました。

インドネシアでの歓迎の様子

## SDGs AICHI EXPO2024出展

10月10日から3日間にわたり開催されたSDGs AICHI EXPOに、学生サークル「The Serendipity」と「租庸調」が参加しました。「The Serendipity」は、多国籍の方々に関わるボランティア活動やカンボジアの小学校での保健教育活動について、「租庸調」は大学内で野菜栽培をすることで得たSDGsへの気づきについて、それぞれパネル展示で紹介しました。



ブース出展の様子

## 豊田市と本学の包括連携協定の更新

2月17日、豊田市役所にて豊田市と本学の包括連携協定の更新を行いました。本協定は、平成25年3月より、相互の発展と充実に資するため、地域社会の文化、芸術、スポーツ、教育、まちづくり等の振興に係る連携及び協力を推進するために締結しています。今後も豊田市との相互連携の強化を図り、より一層の地域社会の発展および人材育成を目指していきます。



豊田市長太田稔彦氏(写真左)と百瀬学長(写真右)

## 「少子化時代を支える新たな私立大学等の経営改革支援」事業に選定

文部科学省および日本私立学校振興・共済事業団が実施する「少子化時代を支える新たな私立大学等の経営改革支援」事業において、メニュー1「少子化時代をキラリと光る教育力で乗り越える、私立大学等戦略的経営改革支援」に選定されました。「確かな看護実践力を有する人材育成に向けたDX推進による教育方略の開発と実装及び大学組織運営の効率化」をテーマに経営改革を進めていきます。

# 日本赤十字広島看護大学

設置学部等 看護学部／大学院

電話 0829-20-2800 住所 広島県廿日市市阿品台東1-2



学長

田村 由美

本学は、ヒューマンケアリングを教育理念とし、人道の心と豊かな感性を身に付けた看護職の育成を目指しています。開学25周年の今年度は、その節目を象徴するロゴマークを学生・教職員から募集し選定しました。また、開学記念特設サイトでの卒業生メッセージの発信、同窓生や地域住民が集いつながる場として「ふたばスペース」の設置も行いました。

大学祭で上映した映画「じょっぱり 看護の人 花田ミキ」は赤十字看護の伝統や魅力を多くの人に伝えるきっかけとなりました。また、鈴木副理事長による特別講演「これからの社会と看護」では学生・教職員とも今後の看護を考える良い契機となりました。

今年度実施した情報ネットワークシステムの全面更新によって「教育DX推進」をさらに進めて行く基盤が整備されたことで、ICTの活用によって伝統ある赤十字看護教育をさらに発展させていく準備が整いました。

本学の重要施策であるヒューマンケアリングセンターの活動も、臨床看護師継続教育、地域連携事業、学生ボランティア活動も順調に進みました。

今後のさらなる飛躍に向けた新たな一歩の年となりました。

## 開学25周年記念特設サイトおよびロゴマーク

本学の開学25周年を記念し、これまでの歩みを振り返るとともに今後の展望を発信することを目的として、特設ウェブサイトおよび記念ロゴマークを制作・公開しました。特設サイトでは、学長からのメッセージ、記念事業の紹介、卒業生からのメッセージ、大学の沿革や地域との連携の取り組みなどを掲載しています。記念ロゴマークは周年の節目を象徴するもので、様々な記念事業や広報物に活用しています。学内外への情報発信を強化し、本学の認知度向上と地域・卒業生とのつながりの促進を図っています。



開学25周年記念ロゴマーク



「BPカフェ」での血圧測定の様子

## 開学25周年記念事業「BPカフェ」

本学の開学25周年を記念し、地域住民や来場者の健康増進と交流促進を目的として、大学祭に合わせて「BPカフェ」を開催しました。本学の学生や教員が参加者の血圧測定を行い、その後、コーヒーなどを楽しみながらリラックスした時間を過ごしていただきました。合計50名の方々にご参加いただき、ご家族連れの方からは「家族と一緒に血圧を測る機会が少ないため、このような機会は貴重」との声をいただくなど、大変好評を博しました。今後も地域の皆様と連携し、健康づくりや交流の場を提供して参ります。

## 開学25周年記念事業「ふたばスペース」を整備

本学の開学25周年を記念し、現役学生、卒業生、地域の方がつながれる場所として、教育研究棟1階エントランスホールに「ふたばスペース」を整備し、令和6年度学位記授与式が執り行われた令和7年3月12日にオープンしました。本学シンボルマークの「ふたば」を表現した2色のスツールを配置し、語り場・憩いの場・交流の場として、大学と卒業生や地域の皆様との架け橋となることを願っています。



「ふたばスペース」オープン当日



本学学生によるスピーチ

## 広島県看護協会主催「ひろしま看護フェスタ2024」に参加

令和5年度までは「看護の日」関連事業として開催されていましたが、今年度は看護の仕事について考え、体験できるイベント「ひろしま看護フェスタ2024」として、5月26日に開催されました。

本学からは、「めざせナイチンゲール看護の未来を見つけよう!」をテーマに、教職員と学生9名が参加しました。当日はブース形式で開催され、本学のブースには100名の方にお越しいただきました。バックパネルの設置、血圧測定モデルや赤ちゃん人形での看護体験、能登半島地震のパネル展示、PR動画

の上映を行いました。参加者からは看護の進路・進学相談が多く、学生たちは大学案内パンフレットを見せながら質問に答えました。

また、本学学生が「看護への道」をテーマに、看護職を目指したきっかけや学生生活についてスピーチし、本学の学びや魅力についても伝えることができ、とても有意義な時間となりました。

## 広島県との「災害時における福祉的支援ボランティアに関する協定」を締結

保健医療や介護・福祉分野を専攻する大学生が、災害発生時において要配慮者の避難先となる「福祉避難所」に赴いてボランティア活動を行う協力体制構築のため、広島県内の看護系大学7大学が協定を締結しました。福祉的支援ボランティアは、福祉避難所において人手が不足する際に、被災市町の要請に基づいて、県と協力大学で調整の上、保健医療・福祉等を専攻する学生がボランティア活動の協力を行うものです。今後、広島県内に災害救助法の適用となる大規模災害の発生時に、市町からの要請を受けて、県がボランティア支援の要否を判断し、大学と協議の上、実施が決定されます。



広島県庁での協定締結式

## 海外の各大学との連携強化を通じて、教育研究活動における国際交流を推進



スラナリー工科大学との覚書締結

教育水準の向上および学術的成果の促進を目的として、タイのスラナリー工科大学およびベルギーのVIVES応用科学大学と、それぞれ新たに学術協力に関する覚書を締結しました。また、スイスのラ・ソース大学とは覚書を再締結し、これらの大学との間で教職員・学生の交流や共同研究を推進しています。今後も国際的な連携を強化し、グローバルな視野を持つ人材の育成に努めて参ります。

## 学生募集に係る関連施設との取り組み「ふれあい看護体験」に参加

7月26日、広島赤十字・原爆病院で開催された「ふれあい看護体験」に本学の学生3名がボランティアスタッフとして参加しました。当日は新型コロナ等感染者の増加に伴い、内容を変更しての開催でしたが、血圧測定の模擬体験サポートや進路相談等、参加者からの質問の一つひとつお答えしました。

また8月2日には、総合病院山口赤十字病院で開催された「ふれあい看護体験」にも本学の学生2名が参加しました。地元出身の学生が参加し、参加者との距離も近く、入試対策や奨学金、保健師・助産師教育課程に関する内容など様々な質問があり、丁寧に対応していました。

今後も継続して、赤十字関連施設と大学、臨床現場と教育が一体となって、将来を担う人材育成により一層取り組んでいきたいと思



広島赤十字・原爆病院でのふれあい看護体験

## 特別講演会「これからの社会と赤十字の看護」を開催

特別講演会  
「これからの社会と赤十字の看護」

特別講演会「これからの社会と赤十字の看護」を10月30日にソフィアホールで開催しました。講師の日本赤十字学園鈴木副理事長より、社会保障制度や人口動態、地域医療連携の重要性などについて詳しい説明がありました。

特に、社会の変化に対応した看護のあり方、地域共生社会の実現、看護職の果たすべき役割について理解を深めることができました。学生・教職員にとって、赤十字の看護理念に基づく今後の取り組みを考える貴重な機会となりました。

## 映画『じょっぱり 看護の人 花田ミキ』上映会を開催

本学の大学祭(10月19日・20日)で、映画『じょっぱり 看護の人 花田ミキ』の上映会を実施しました。地域医療に貢献した看護師の姿を描いた本作品は、多くの地域住民にご鑑賞いただきました。上映後は感動したとの声が多数寄せられ、地域との交流を深める機会となりました。看護大学としての役割や使命を改めて地域の皆様と共有できた、意義深い催しとなりました。



映画「じょっぱり」ポスター

# 日本赤十字九州国際看護大学



設置学部等 看護学部／大学院

電話 0940-35-7001 住所 福岡県宗像市アスティ1-1



学長

池松 裕子

今年度は、学部の新カリキュラム初年度でした。フレキシブルな学びが可能となるようなクォーター制を取り入れ、新たな学部教育の幕開けとなりました。赤十字の理念を体現するための教育に変わりはありませんが、1年次に赤十字関連施設の見学実習を取り入れるなど、本学で学ぶ意義を早くから自覚してもらえるようになったのではないかと思います。社会連携活動も活発に行っており、教職員の貢献のみならず、学生ボランティアの活躍によって地元宗像市の活性化に寄与しています。4年目となる学長杯では、今年度も富田理事長の参加のもと、九州管内の赤十字病院の看護師さんや日本赤十字社福岡県支部の方のご協力を得て、昨年にも増して盛り上がりました。コロナ禍で縮小していた国際交流も徐々に再開しはじめており、スイスとインドネシアからの研修生を受け入れ、本学からはタイ、スイス、インドネシアへ研修に赴きました。また、今年度は情報設備と空調設備の刷新及び外壁工事と、大学内外ともに一新しました。来年度からはさらなる飛躍を目指します。

## 新実習室の整備

近年、シミュレーション機器を活用したアクティブラーニングの需要が高まっており、本学もCALL教室として使用していた教室を用途変更し、新たに実習室4として整備しました。実習室4に配置した高機能シミュレーターを活用することで、アクティブラーニングがより活発に行えるようになり、学生の学習環境が一層充実しました。この整備により、教育効果の向上が期待されます。



高機能シミュレーターを使用した講義の様子

## JICA課題別研修の実施

開学時から毎年研修生の受け入れを行っているJICA研修事業を、今年度も「地域保健向上のための保健人材強化」を目的に実施しました。今年度は、6か国(カンボジア、ケニア、マダガスカル、ネパール、パキスタン、ザンビア)から8名の研修員が受講し、日本の保健医療制度や看護人材育成確保等について学びました。研修生は、本研修を通して学んだことを、それぞれの職務を踏まえてアクションプランを立て、自国に持ち帰りました。



JICA研修閉講式の様子

## FD研修「多面的な学修成果・教育評価」の実施

学部教育の向上を目指し、「多面的な学修成果・教育評価の研修」をテーマに、本学の木村講師と吉原助教によるFD研修を実施しました。

この研修では、学生が自らの学習成果を実感できるよう

な教育評価方法について学びました。具体的には、ICTを活用した評価方法や、グループワーク演習におけるピア評価について学びました。

質疑応答では活発な議論が交わされ、参加者にとって有意義な研修となりました。



研修の様子

※職位は、令和6年度末時点

## 本学学生が「全国大学ビブリオバトル2024本戦」に出場

本学では毎年、全国大学ビブリオバトルの学内予選会を開催しています。学生たちがおすすめ本を持ち合い、1人5分でその魅力を語り、発表者と聴衆者が最も読みたくなった本を決める書評合戦「ビブリオバトル」。そのキャッチコピーでもある「人を通して本を知る。本を通して人を知る。」よい機会となっています。今年度は、6回目となる全国大会への出場を果たしました。



学内予選会の様子

九州ブロック決戦で代表に選ばれました



## 「クロスカレッジ2024」の実施

地域の方向け公開講座を、4回実施しました。

「かがやけシニア」をテーマにした講座では、脳を活性化し認知症予防と健康促進を目指す運動や、簡単な計算や記憶力ゲームなどの脳トレ、そして昨年も好評だった「笑いヨガ」を行いました。

また、新たなテーマ「異文化理解と体験」では、市内で外国人が増えている中、トラブルなく暮らしていくために相互理解、尊重が大切であることを学びました。



コグニサイズを実践している様子

## 1年生新科目「赤十字フィールド体験実習」

今年度入学生より新たなカリキュラムで学修しています。1年生科目「赤十字フィールド体験実習」は、赤十字に関する資料館や赤十字病院、九州ブロック血液センター、献血ルーム、特別養護老人ホームなどを訪問し、赤十字活動の実際を通して、赤十字の理念と地域社会における赤十字の役割について深く学びます。



救護倉庫を見学している様子

## ラ・ソース大学（スイス）とアイルランガ大学（インドネシア）の学生と共に学修



学内での一次救命処置の様子

ラ・ソース大学とアイルランガ大学の学生との学修活動では、災害がもたらす人道危機や健康障害について学び、急性期から静穏期・準備期における赤十字の取り組みや災害対策、災害に対する意識について比較し、どのような行動が必要かを話し合いました。

国によって災害の種類は異なるものの、赤十字が果たす使命や役割は世界共通で、被災者の命や健康を守ることや被害を最小限にするための学びを還元することの必要性を学びました。

## 国際シンポジウム・国際フォーラムを開催

「地域における災害への備え」をテーマに「国際シンポジウム・国際フォーラム」を開催し、ハワイ大学のGlauberman准教授と岡田悠偉人氏を講師としてお招きしました。フォーラムでは、ハワイの文化的多様性における災害時の障壁と看護師の役割についてご講演いただきました。シンポジウムでは、宗像市地島での学生グループによる防災・減災活動の成果が発表され、防災リュックの詰め方実演も行われ、実践的な知識が共有されました。



国際シンポジウム・国際フォーラムの集合写真

# 日本赤十字看護大学附属災害救護研究所の動向

災害救護研究所は、日本赤十字看護大学の附属機関として2021(令和3)年6月1日に設置されました。

今年度は「令和6年能登半島地震」において被災者支援には喫緊の課題があると強く認識し、被災者の生活全般に対する支援の在り方や具体的な活動という研究所の部門横断的な課題を解決するため被災者生活支援部門を設置しました。

10の部門において多様な課題に対する研究活動を行い、災害関係雑誌への投稿、論文執筆や学会発表等によりその結果を周知しています。また、ホームページや毎年開催するセミナーなどで、各部門の研究成果や内外の皆様と共有するための最新情報を発信しています。

それぞれの研究部門の成果が、広く災害対策にかかる分野の発展に貢献することを目指して、当研究所はこれからも行政や他機関との連携・協働を進めていきます。

部門	今年度の主な研究テーマ
<b>災害救護部門</b> Disaster Relief Division	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広域放射線災害時に日本赤十字社に求められる他機関協働を含む役割の再確認と活動基準の適正性の検討</li> <li>・ 本邦における医療コンテナの運用状況と今後の展望</li> </ul>
<b>国際医療救援部門</b> International Medical Relief Division <b>国際救援部門</b> International Relief Division	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次世代の環境にやさしい医療救護施設 / 機材の開発（再生可能エネルギーで自給する低電力照明・空調システム、水生成・再利用装置、超軽量テント）（2部門の共同研究）</li> </ul>
<b>災害看護部門</b> Disaster Nursing Division	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東日本大震災復興期における看護師による健康支援の意味</li> <li>・ 令和6年能登半島地震において日本赤十字社から派遣された看護師の支援</li> </ul>
<b>防災減災部門</b> Disaster Prevention and Mitigation Division	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本における現金給付プログラムの適用の可能性にかかる基礎的研究</li> </ul>
<b>心理社会的支援部門</b> Psychosocial Support Division	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ COVID-19 パンデミック下の医療機関におけるスタッフへの精神保健および心理社会的支援の実態調査</li> <li>・ 日本赤十字社の国際緊急救援活動における心理社会的支援の変遷 など</li> </ul>
<b>感染症部門</b> Infectious Disease Division	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 被災地における日赤医療活動の感染対策能力強化に関する研究</li> </ul>
<b>災害ボランティア部門</b> Disaster Volunteering Division	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 赤十字ボランティアの被災者支援活動のコーディネーションモデルの構築</li> <li>・ 令和6年能登半島地震における赤十字ボランティアの活動実体の把握</li> </ul>
<b>災害救援技術部門</b> Humanitarian Technology Division	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害時のモバイルインフラの利活用モデル構築に関する研究</li> <li>・ 厳しい気候環境下における、平常時の健康・安全課題と災害時の避難環境確立との共通解に関する研究 など</li> </ul>
<b>被災者生活支援部門</b> Disaster Victim Life Support Division 令和6年5月設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害時の被災者生活支援プログラムの作成、およびその実践に向けた研修プログラムの開発</li> </ul>

## 1 被災者生活支援部門の設置

令和6年能登半島地震の経験から被災者支援には喫緊の課題があると強く認識し、10番目となる被災者生活支援部門を設置しました。部門が取り扱う範囲は、避難所に限らず様々な場所で生活を余儀なくされている被災者の生活全般に対する支援の在り方を再考し、発展的かつ具体的な支援活動について研究する部門となります。

部門長は、平成23年の東日本大震災を経験し、熊本地震以降の災害関連死の問題に取り組んでいる石巻赤十字病院副院長の植田信策氏が選任されました。

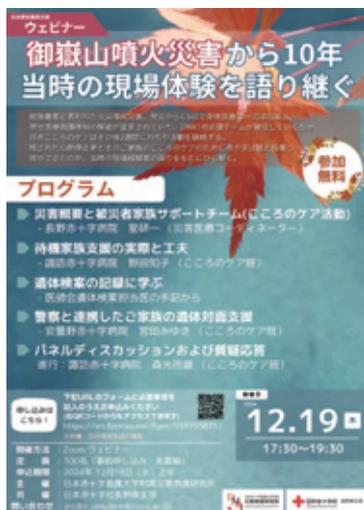
## 2 研究所セミナー「予測型行動がいのちを救う」ウェビナー開催

3月1日に、「予測型行動がいのちを救う～学び、備え、行動する～赤十字がいま提唱するアクションの意味とは」と題してウェビナーを実施しました。当日は274名の参加者があり、第一部パネルディスカッションでは、「予測型行動」をテーマに日本赤十字社救護・福祉部、同社石川県支部、DMAT事務局の災害関連担当者にご登壇いただきました。第二部の部門研究発表では、森光心理社会的支援部門長から「コロナパンデミック下における心理社会的支援の教訓活用：実践と研究の両面から」、白土防災減災部門長から「過去の災害経験に基づく地域の防災減災普及のあり方について」の報告がありました。



## 3 「御嶽山噴火災害から10年～当時の現場体験を語り継ぐ～」ウェビナー開催

御嶽山噴火災害発災から10年経過し、長野県より体験知の共有をテーマにウェビナーが開催されました。当日は398名の参加者があり、「こころのケアの奥深さ、看護の温かさを知った」「日航機墜落事故とも重なった。赤十字の心理社会的支援の意義とその重要性を再確認した」「10年の月日を経て口にできる思い・葛藤など、当事者の生の声・思いは真実として心に突き刺さった」等の反響がありました。



## 4 日本赤十字北海道看護大学災害対策教育センター 厳冬期災害演習における共同検証

1月18日～19日に開催された本演習に災害救援技術部門、被災者生活支援部門が参加しました。帝人株式会社と水素燃料電離発電機を使用した電気ポットや電子レンジへの給電等の検証やワークマン株式会社と「災害現場などの過酷な環境下でも耐えられる機能を普段着へ応用」した万能普段着の実証実験を行いました。



## ミッション

日本赤十字国際人道研究センター (Japanese Red Cross Institute for Humanitarian Studies: JRCIHS) は、日本赤十字社の学術研究、調査活動の拠点として平成23年4月、学校法人日本赤十字学園内に設立されました。

赤十字の理念、原則、歴史、諸活動の調査研究の成果を広く社会に提供し、多様な研究者並びに一般の方々の赤十字活動への理解と共感を促進し、人道の実現に寄与することを願い活動しています。これらの研究活動は、本学園所属の各大学、短大の研究者及びその他の大学、研究機関等の客員研究員により進められています。

## 主な 活動内容

- 赤十字の理念、原則、歴史、活動に関する史料の収集、調査研究
- 赤十字思想、国際人道法の研究・普及啓発のための資料、刊行物等の制作
- 内外の人道問題への理解を促進し、人道的価値観の普及を目指す講演・イベント等の開催

## 令和6年度の研究活動

### 1 「人道研究ジャーナル Vol.14」の刊行

本誌は、当センターの研究機関誌であり、本号では巻頭に日本赤十字社副社長の寄稿、特集「ハワイの赤十字秘話」、大阪・関西万博における赤十字パビリオンの出展、自律型兵器が投げかける問題などの論考を掲載し、日本赤十字社各都道府県支部・施設をはじめ、関連省庁、人道関連団体、大学研究者、大学図書館及び教育機関などに配布しました。



人道研究ジャーナル Vol.14

### 2 赤十字の歴史関連の教育・啓発用資材の制作

#### 「赤十字看護婦の救護活動－近代－」に関する冊子の刊行

本冊子は日赤史に詳しい吉川龍子氏(元日本赤十字看護大学図書館司書)が執筆し、元赤十字看護師の手記などを盛り込んだ歴史書です。看護教育史を教授する教育現場の副教材としても活用されることを意図し、主に各赤十字看護大学・看護専門学校に配布しました。



赤十字看護婦の救護活動  
－近代－

### 3 国際活動フォーラム「国際人道法と医療の保護～現在と未来～」開催



10月18日に第60回日本赤十字社医学会総会のセッションの一つとして、日本赤十字社国際部及び日本赤十字看護大学附属災害救護研究所との共催で、国際活動フォーラム「国際人道法と医療の保護～現在と未来～」を開催し、当センターから角田副所長が座長として出席しました。

国際活動フォーラム  
「国際人道法と医療の保護～現在と未来～」

### 4 日本赤十字社の歴史史料調査・収集

日本赤十字看護大学では赤十字看護史に関する史料の収集と保存、閲覧サービス、学内での展示などを継続して行っています。

#### 日本赤十字看護大学 展示コーナーをリニューアル 企画展「福島県浪江町への保健支援活動～東日本大震災と災害看護～」を開催

平成23年3月11日の東日本大震災では東京電力福島第一原子力発電所の事故により、同県双葉郡の町村に暮らす住民が移住を余儀なくされました。日本赤十字看護大学は発災後から日本赤十字社、日本赤十字社福島県支部、福島県赤十字血液センター、浪江町、いわき市などの各機関と連携し、いわき市に避難した浪江町民への保健サービス支援を行ってきました。展示コーナーではその活動を3部構成で紹介。特に、同保健サービス支援の拠点として開設された「日赤なみえ保健室」での避難住民の交流や保健支援活動をパネルで紹介しています。同展示は令和8年3月まで予定しています。

また、展示コーナー内に設置されている動画ブース(3部構成)の「ナイチンゲール記章」のリニューアルを行いました。



日本赤十字看護大学の展示コーナー

### 5 研究員による主な研究活動

- 国民保護法に基づく日本赤十字社の対応に関する調査研究
- 日本赤十字社の歴史的資料の長期保存と研究促進のためのデジタル化
- 日露戦争の救護(従軍)看護婦養成に使用された教本の調査
- IFRC・PSセンター発行のマニュアル類(The well-being guide)の翻訳
- 日航機123便墜落事故における日本赤十字社の救護活動に係る調査研究
- 赤十字が取り組む、人の尊厳を護る災害対策の研究
- 赤十字の基本原則に関する実践知の共有システム構築の試み
- 第二次世界大戦中の捕虜待遇に関する資料の収集・分析

## 学生の動向

### 1 入学者の状況 (令和6年5月1日現在)

令和6年度の学部入学人数は、6大学7学部で合わせて798人でした。また、大学院は修士課程82人及び博士課程10人、短期大学は13人がそれぞれ入学しました。

(単位:人)

学校名	看護学部			大学院看護学研究科				
	入学定員	志願者	入学者	課程	専攻	入学定員	志願者	入学者
日本赤十字 北海道看護大学	100	185	68	修士	看護学	16	14	9
				博士	共同看護学 ※1	2	2	2
日本赤十字 秋田看護大学	100	319	113	修士	看護学	12	7	5
				博士	共同看護学 ※1	2	0	0
日本赤十字看護大学	130	850	152	修士	看護学	32	42	30
					国際保健助産学	15	32	15
				博士	看護学 ※1	10	6	2
					共同災害看護学 ※2	—	—	—
さいたま 看護学部	80	519	91	博士	看護学 ※1	10	6	2
					共同災害看護学 ※2	—	—	—
日本赤十字 豊田看護大学	120	512	138	修士	看護学	10	7	7
				博士	共同看護学 ※1	2	3	3
日本赤十字 広島看護大学	125	481	135	修士	看護学	10	9	8
				博士	共同看護学 ※1	2	2	2
日本赤十字 九州国際看護大学	100	253	101	修士	看護学	10	14	8
				博士	共同看護学 ※1	2	1	1
合計	755	3,119	798	修士	看護学	90	93	67
					国際保健助産学	15	32	15
					合計	105	125	82
				博士	共同看護学 ※1	10	8	8
					看護学 ※1	10	6	2
					共同災害看護学 ※2	—	—	—
					合計	20	14	10
(参考) 3年次編入 日本赤十字看護大学看護学部								
	10	27	12					

博士課程のうち、※1は博士後期課程、※2は5年一貫制博士課程

(単位:人)

学校名	介護福祉学科		
	入学定員	志願者	入学者
日本赤十字 秋田短期大学	30	13	13

2 在学生の状況 (令和6年5月1日現在)

令和6年度の在学生数については、学部学生は6大学7学部で合わせて3,267人、大学院生は修士課程210人及び博士課程84人でした。また、短期大学では27人が在学していました。

(単位:人)

学 校 名	看護学部		大学院看護学研究科			
	収容定員	在学生	課程	専 攻	収容定員	在学生
日本赤十字 北海道看護大学	400	374	修士	看護学	32	18
			博士	共同看護学 ※1	6	13
日本赤十字 秋田看護大学	400	429	修士	看護学	24	16
			博士	共同看護学 ※1	6	2
日本赤十字看護大学			修士	看護学	64	76
看護学部	540	596		国際保健助産学	30	30
さいたま 看護学部	320	357	博士	看護学	28	35
				共同災害看護学 ※2	2	5
日本赤十字 豊田看護大学	480	546	修士	看護学	20	21
			博士	共同看護学 ※1	6	13
日本赤十字 広島看護大学	500	530	修士	看護学	20	24
			博士	共同看護学 ※1	6	6
日本赤十字 九州国際看護大学	400	435	修士	看護学	20	25
			博士	共同看護学 ※1	6	10
合 計	3,040	3,267	修士	看護学	180	180
				国際保健助産学	30	30
				合 計	210	210
			博士	共同看護学 ※1	30	44
				看護学	28	35
				共同災害看護学 ※2	2	5
				合 計	60	84

博士課程のうち、※1は博士後期課程、※2は5年一貫制博士課程

(単位:人)

学 校 名	介護福祉学科	
	収容定員	在学生
日本赤十字 秋田短期大学	60	27

### 3 卒業生の進路状況 (令和7年4月1日現在)

令和6年度の学部の卒業生は793人であり、そのうち427人(53.8%)が赤十字病院に就職しました。また、修士課程の修了者93人のうち33人(35.5%)及び博士課程の修了者12人のうち6人(50.0%)が、赤十字病院・赤十字関係教育機関等に就職しました。なお、学部卒業生のうち241人(30.4%)が、赤十字奨学金を受給しています。

#### 【看護学部】

(単位:人)

学校名	卒業生数	就職者					進学者 (専門学校を含む)	就職・進学 以外の 進路者	進路 未定者
		合計	内 訳						
			赤十字病院 (%は対卒業生数)	赤十字以外 の病院	その他 (行政等)				
日本赤十字北海道看護大学	81	76	53	65.4%	20	3	6	0	0
(うち赤十字奨学生)	62	60	52		6	2	2	0	0
日本赤十字東北看護大学	107	100	42	39.3	50	8	5	1	1
(うち赤十字奨学生)	21	21	21		0	0	0	0	0
日本赤十字看護大学看護学部	143	134	90	62.9	40	4	8	1	0
(うち赤十字奨学生)	42	41	37		4	0	1	0	0
日本赤十字看護大学さいたま看護学部	88	82	50	56.8	30	2	4	0	2
(うち赤十字奨学生)	13	13	13		0	0	0	0	0
日本赤十字豊田看護大学	138	135	84	60.9	48	3	2	0	1
(うち赤十字奨学生)	59	57	56		1	0	1	0	1
日本赤十字広島看護大学	120	111	56	46.7	46	9	6	0	3
(うち赤十字奨学生)	22	20	20		0	0	1	0	1
日本赤十字九州国際看護大学	116	109	52	44.8	55	2	3	0	4
(うち赤十字奨学生)	22	21	21		0	0	1	0	0
合 計	<b>793</b>	<b>747</b>	<b>427</b>	<b>53.8</b>	<b>289</b>	<b>31</b>	<b>34</b>	<b>2</b>	<b>11</b>
うち赤十字奨学生合計	<b>241</b>	<b>233</b>	<b>220</b>		<b>11</b>	<b>2</b>	<b>6</b>	<b>0</b>	<b>2</b>

※「就職」と「進学」には働きながら進学する者を各々計上しているため、「就職者」～「進路未定者」の合計と「卒業生数」とは一致しない場合がある。

#### 【短期大学 介護福祉学科】

(単位:人)

学校名	卒業生数	就職者					進学者	進路 未定者
		合計	内 訳					
			赤十字 関係施設	赤十字 以外の 医療施設	赤十字 以外の 福祉施設	その他 (行政等)		
日本赤十字東北看護大学 介護福祉短期大学部	12	12	0	2	10	0	0	0

※卒業生には赤十字奨学生はいない。

## 【大学院】

### (修士課程)

(単位:人)

学校名	修了者数	就職者						進学者		進路未定者 (就職・進学以外の進路含む)
		合計	内訳				赤十字関係	赤十字以外		
			医療機関		その他(行政・教育施設等)					
			赤十字病院 (%は対修了者数)	赤十字以外の病院	赤十字関係	赤十字以外				
日本赤十字北海道看護大学	8	8	5	62.5%	2	1	0	0	0	0
(うち赤十字奨学生)	5	5	5		0	0	0	0	0	0
日本赤十字東北看護大学	10	10	3	30.0	5	1	1	0	0	0
(うち赤十字奨学生)	1	1	1		0	0	0	0	0	0
日本赤十字看護大学	45	42	8	17.8	30	2	2	0	0	3
(うち赤十字奨学生)	1	0	0		0	0	0	0	0	1
日本赤十字豊田看護大学	9	9	3	33.3	3	3	0	0	0	0
(うち赤十字奨学生)	0	0	0		0	0	0	0	0	0
日本赤十字広島看護大学	10	10	3	30.0	3	2	2	0	0	0
(うち赤十字奨学生)	0	0	0		0	0	0	0	0	0
日本赤十字九州国際看護大学	11	11	2	18.2	8	0	1	0	0	0
(うち赤十字奨学生)	0	0	0		0	0	0	0	0	0
合計	93	90	24	25.8	51	9	6	0	0	3
うち赤十字奨学生合計	7	6	6		0	0	0	0	0	1

※「就職」と「進学」には働きながら進学する者を各々計上しているため、「就職」～「進路未定者」の合計と「修了者数」とは一致しない場合がある。

### (博士課程)

(単位:人)

学校名	修了者数	就職者						進学者		進路未定者 (就職・進学以外の進路含む)
		合計	内訳				赤十字関係	赤十字以外		
			医療機関		その他(行政・教育施設等)					
			赤十字病院 (%は対修了者数)	赤十字以外の病院	赤十字関係	赤十字以外				
日本赤十字北海道看護大学	3	3	0	0.0%	0	3	0	0	0	0
(うち赤十字奨学生)	0	0	0		0	0	0	0	0	0
日本赤十字東北看護大学	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0
(うち赤十字奨学生)	0	0	0		0	0	0	0	0	0
日本赤十字看護大学	6	6	0	0.0	3	1	2	0	0	0
(うち赤十字奨学生)	0	0	0		0	0	0	0	0	0
日本赤十字豊田看護大学	3	3	0	0.0	0	2	1	0	0	0
(うち赤十字奨学生)	0	0	0		0	0	0	0	0	0
日本赤十字広島看護大学	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0
(うち赤十字奨学生)	0	0	0		0	0	0	0	0	0
日本赤十字九州国際看護大学	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0
(うち赤十字奨学生)	0	0	0		0	0	0	0	0	0
小計	12	12	0	0.0	3	6	3	0	0	0
うち赤十字奨学生小計	0	0	0		0	0	0	0	0	0
5年一貫制博士課程	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0
(うち赤十字奨学生)	0	0	0		0	0	0	0	0	0
小計	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0
うち赤十字奨学生小計	0	0	0		0	0	0	0	0	0
合計	12	12	0	0.0	3	6	3	0	0	0
うち赤十字奨学生合計	0	0	0		0	0	0	0	0	0

※「就職」と「進学」には働きながら進学する者を各々計上しているため、「就職」～「進路未定者」の合計と「修了生数」とは一致しない場合がある。

#### 4 国家試験の合格状況 (看護師・保健師・助産師・介護福祉士 令和7年3月25日発表)

6大学における各国家試験の新卒者の平均合格率は、看護師98.7%、保健師98.0%及び助産師100%でした。また、短期大学の介護福祉士国家試験の合格率は100%でした。引き続き各大学では、合格率100%を目指し、教育・指導を強化することとしています。

##### ●第114回看護師国家試験

(単位:人)

学校名	合計			新卒			既卒		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
日本赤十字北海道看護大学	81	79	97.5%	81	79	97.5%	0	0	— %
日本赤十字秋田看護大学	117	111	94.9	107	105	98.1	10	6	60.0
日本赤十字看護大学看護学部	135	134	99.3	132	132	100.0	3	2	66.7
日本赤十字看護大学さいたま看護学部	90	90	100.0	88	88	100.0	2	2	100.0
日本赤十字豊田看護大学	139	138	99.3	138	137	99.3	1	1	100.0
日本赤十字広島看護大学	124	121	97.6	120	117	97.5	4	4	100.0
日本赤十字九州国際看護大学	119	116	97.5	116	114	98.3	3	2	66.7
合計	<b>805</b>	<b>789</b>	<b>98.0</b>	<b>782</b>	<b>772</b>	<b>98.7</b>	<b>23</b>	<b>17</b>	<b>73.9</b>

##### ●第111回保健師国家試験

(単位:人)

学校名	合計			新卒			既卒		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
日本赤十字北海道看護大学	20	19	95.0%	19	18	94.7%	1	1	100.0%
日本赤十字秋田看護大学	24	24	100.0	24	24	100.0	0	0	—
日本赤十字看護大学看護学部	18	18	100.0	18	18	100.0	0	0	—
日本赤十字看護大学さいたま看護学部	20	20	100.0	20	20	100.0	0	0	—
日本赤十字豊田看護大学	22	22	100.0	22	22	100.0	0	0	—
日本赤十字広島看護大学	30	28	93.3	30	28	93.3	0	0	—
日本赤十字九州国際看護大学	18	18	100.0	17	17	100.0	1	1	100.0
合計	<b>152</b>	<b>149</b>	<b>98.0</b>	<b>150</b>	<b>147</b>	<b>98.0</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>100.0</b>

##### ●第108回助産師国家試験

(単位:人)

学校名	合計			新卒			既卒		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
日本赤十字北海道看護大学大学院	6	6	100.0%	6	6	100.0%	0	0	— %
日本赤十字秋田看護大学大学院	4	4	100.0	4	4	100.0	0	0	—
日本赤十字看護大学大学院	12	12	100.0	12	12	100.0	0	0	—
日本赤十字九州国際看護大学大学院	5	5	100.0	5	5	100.0	0	0	—
合計(大学院)	<b>27</b>	<b>27</b>	<b>100.0</b>	<b>27</b>	<b>27</b>	<b>100.0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>—</b>
日本赤十字広島看護大学(学部)	9	9	100.0	9	9	100.0	0	0	—
合計	<b>36</b>	<b>36</b>	<b>100.0</b>	<b>36</b>	<b>36</b>	<b>100.0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>—</b>

※既卒の受験者はいない。

##### ●第37回介護福祉士国家試験(新卒)

(単位:人)

学校名	受験者	合格者	合格率
日本赤十字秋田短期大学	12	12	<b>100.0%</b>

※既卒の受験者はいない。

## 教育活動の動向

各大学においては、「人間のいのちと健康、尊厳を守る」という赤十字の使命に基づいて、国内外で活躍できる質の高い看護師教育を行っています。

また、短期大学では、医療・福祉の現場で活躍できる介護福祉士教育が行われています。

### 1 ICTを活用した教育の推進

平成28年度から、北海道、東北、豊田、広島及び九州の5看護大学が連携して「大学院看護学研究科共同看護学専攻(博士後期課程)」を設置し、主にWeb会議ツールを用いた教育が実施されています。これまでに蓄積してきた赤十字の教育・研究の資源や成果を1つの「共同教育課程」を通じて有機的に機能させ、看護の発展に寄与できる研究者、教育者及び実践者の養成を目指しています。

### 2 赤十字病院等と連携した臨地実習

各大学では、臨地実習科目の約7割、多い大学では8割以上を赤十字病院等と連携して行っています。また、赤十字病院では、看護教員資格を取得可能な研修や臨地実習指導者養成講習会などの教育・指導に関する研修を修了した者が多く在籍し、質の高い臨地実習環境が提供されています。

### 3 大学院における専門看護師(CNS)教育課程の推進

保健・医療・福祉の発展に貢献し、看護実践の質の向上を図ることに寄与できる高度専門職業人としての看護師を育成するため、全看護大学大学院において、専門看護師(CNS)教育課程を開設しています。

令和6年度は、4看護大学で合計25人が同教育課程を修了しました。

#### ●専門看護師(CNS)の教育課程を設置する大学

(単位:人)

学 校 名	教育課程名	日本看護系大学協議会 認定単位	修了者数	学 校 名	教育課程名	日本看護系大学協議会 認定単位	修了者数
日本赤十字 北海道看護大学大学院	慢性看護	38	0	日本赤十字 豊田看護大学大学院	小児看護	38	2
	精神看護	38	0		老年看護	38	0
日本赤十字 秋田看護大学大学院	がん看護	38	2		日本赤十字 広島看護大学大学院	精神看護	38
	老年看護	38	0	小児看護		38	0
日本赤十字 看護大学大学院	精神看護	38	0	日本赤十字 九州国際看護大学大学院		精神看護	38
	がん看護	38	5		災害看護	38	0
	小児看護	38	0		がん看護 ※	38	0
	慢性看護	38	3	合 計	クリティカルケア看護	38	3
	クリティカルケア看護	38	2		在宅看護	38	0
	老年看護	38	2		精神看護	38	0
	精神看護	38	0		老年看護	38	0
	在宅看護	38	2				
災害看護	38	4				25	

※各大学とも看護学研究科看護学専攻修士課程に設置  
注)CNS:Certified Nurse Specialist ※休講

### 4 認定看護管理者(CNA)教育課程の開設

3看護大学大学院(日看大・豊田・広島)では、認定看護管理者の認定審査を受験できるコース等を設置して資格取得に向けた教育を行っており、令和6年度は7人が修了しました。

#### ●認定看護管理者(CNA)認定審査の 受験資格が取得可能な大学

(単位:人)

学 校 名	領 域	修了者数
日本赤十字 看護大学大学院	看護管理学領域	3
日本赤十字 豊田看護大学大学院	看護管理学領域	0
日本赤十字 広島看護大学大学院	教育・研究者コース	4
合 計	—	7

※各大学とも修士課程に設置  
注)CNA:Certified Nurse Administrator

当学園が設置する各大学の教員は、災害・国際看護などの看護学に関する研究、看護教育に関する研究、赤十字に関する研究など、個々の専門性を活かした研究に取り組みました。

## 1 学園基金等による研究活動助成

「学校法人日本赤十字学園赤十字と看護・介護に関する研究助成」では、赤十字に関する研究として8件の応募があり、8件を採択し14,891千円を交付しました。令和6年度は、5年度からの継続事業6件、3年度からの繰り越し事業2件及び2年度からの繰り越し事業1件を合わせ、合計17件の研究を支援しています。

教員の教育・研究活動を推進するための「学校法人日本赤十字学園教育・研究及び奨学費基金」による支援については、4件の応募があり、2件を採択し3,301千円を交付しました。令和6年度は、5年度からの継続事業1件及び4年度からの繰り越し事業1件及び3年度からの繰り越し事業1件を合わせ、合計5件の研究を支援しています。

### ●令和6年度「学校法人日本赤十字学園赤十字と看護・介護に関する研究助成」による支援事業の状況【新規事業】

学校名	支援事業テーマ	研究期間
日本赤十字秋田看護大学	過疎農村高齢者に対するICT活用型集団健康教育・アウトリーチ複合プログラムの開発	2年
日本赤十字看護大学	戦間期における公衆衛生看護の発展と日本赤十字社の役割に関する研究	2年
	日本赤十字社の看護師養成と看護教育の近代化：大山捨松の活動に焦点を当てて	2年
	訪問看護における連絡ノートを介したコミュニケーションの現象学的研究	1年
日本赤十字豊田看護大学	看護学生のための避難生活における看護援助を学習する机上シミュレーション教材の開発	2年
	母親が母乳育児に感じる心地よさ尺度の信頼性と妥当性の検証研究	1年
	実習記録の電子化による学習成果	2年
日本赤十字九州国際看護大学	Intensive Care Unit 版 Quality of Dying and Death 家族評価用日本語版の作成	1年
4 大学 8 件		

### 【継続事業】

学校名	支援事業テーマ	研究期間
日本赤十字北海道看護大学	COVID - 19 に対応した看護師の道徳的傷つきと精神的ストレス及び組織的サポートニーズ ―クラスター経験との関連―	2年
日本赤十字看護大学	インドネシア共和国における協働によるコミュニティ参画型学校防災プログラムの開発	2年
日本赤十字豊田看護大学	防護動機理論を用いた産科病棟における災害対策の現状とその関連要因の検討	2年
	赤十字病院の複数の部署と大学が連携して取り組む幼児の術前看護モデルの検証	2年
	浅い鎮静深度で管理されている人工呼吸器装着患者に対する睡眠支援	2年
	初学者の模擬電子カルテからの情報収集方法の実際	2年
3 大学 6 件		

### 【令和3年度事業のうち令和6年度へ繰り越した事業】

学校名	支援事業テーマ	研究期間
日本赤十字看護大学	コロナ禍で展開したブレンディッド・ラーニングによる学生の学びと看護技術教育方法の検討～日常生活行動援助に焦点を当てて～	2年
日本赤十字豊田看護大学	新型コロナ時代の『イラストで良くわかる高齢者介護施設のための感染対策マニュアル&動画』の作成と、介護施設の職員の感染対策力を底上げする教育システムの構築	2年
2 大学 2 件		

### 【令和2年度事業のうち令和6年度へ繰り越した事業】

学校名	支援事業テーマ	研究期間
日本赤十字看護大学	東日本大震災後に糖尿病を発症・悪化した人びとにおける生活経験の現象学的記述―複合災害に見舞われた福島県相馬・南相馬地区での調査を介して―	2年
1 大学 1 件		

●令和6年度「学校法人日本赤十字学園教育・研究及び奨学費基金」による支援事業の状況

【新規事業】

学校名	支援事業テーマ	研究期間
日本赤十字豊田看護大学	ベトナム人介護職員が行う口腔ケアの実践と指導状況の実際	2年
	国際的に活躍する看護学生育成のための教育活動・評価・ルーブリック開発について 一赤十字の理念と建学の精神を中心に	1年
1 大学 2 件		

【継続事業】

学校名	支援事業テーマ	研究期間
日本赤十字豊田看護大学	超音波画像診断装置を用いた全身麻酔患者の気管チューブカフ上部分泌物の評価	2年
1 大学 1 件		

【令和4年度事業のうち令和6年度へ繰り越した事業】

学校名	支援事業テーマ	研究期間
日本赤十字秋田看護大学	在宅高齢者の排泄自立支援に向けた専門職者連携モデル開発	2年
1 大学 1 件		

【令和3年度事業のうち令和6年度へ繰り越した事業】

学校名	支援事業テーマ	研究期間
日本赤十字豊田看護大学	場面緘黙を抱える成人当事者と家族に有効なサポートの検討	1年
1 大学 1 件		

## 2 科学研究費等競争的外部研究資金に係る申請・採択状況

各大学の教員は、研究活動の活性化のため、科学研究費等競争的外部資金への応募を行っています。令和6年度は、6看護大学・1短期大学で合計91件(前年度76件)の新規応募を行い、33件(36.3%, 前年度24件)が採択されました。

また、助成金額の合計額は、「直接経費」が103,452千円(前年度97,660千円)、「間接経費」が27,735千円(前年度25,638千円)の合わせて131,187千円(前年度123,297千円)でした。

●令和6年度科学研究費等競争的外部研究資金に係る申請・採択状況

【大学別採択件数】

(単位:件)

学校名	研究代表者				研究分担者
	新規		継続	合計	
	申請	採択			
日本赤十字北海道看護大学	24	5	5	10	11
日本赤十字秋田看護大学	14	8	8	16	4
日本赤十字看護大学	18	9	17	26	22
日本赤十字豊田看護大学	10	6	16	22	19
日本赤十字広島看護大学	11	1	19	20	12
日本赤十字九州国際看護大学	14	4	14	18	9
日本赤十字秋田短期大学	0	0	0	0	0
合計	91	33	79	112	77

【大学別助成金額】

(単位:千円)

学校名	直接経費				間接経費	合計
	研究代表者		研究分担者	小計		
	新規	継続				
日本赤十字北海道看護大学	6,400	11,547	2,870	20,817	4,669	25,486
日本赤十字秋田看護大学	5,901	1,350	220	7,471	2,031	9,502
日本赤十字看護大学	9,380	19,185	3,953	32,518	8,893	41,411
日本赤十字豊田看護大学	9,900	7,425	1,854	19,179	5,596	24,775
日本赤十字広島看護大学	700	7,600	2,085	10,385	2,964	13,349
日本赤十字九州国際看護大学	4,200	8,312	570	13,082	3,582	16,664
日本赤十字秋田短期大学	0	0	0	0	0	0
合計	36,481	55,419	11,552	103,452	27,735	131,187

- 継続研究には、他学園から当学園へ異動してきた者も含む。
- 赤十字と看護・介護に関する研究助成、教育・研究及び奨学費基金にかかる教育・研究事業は除く。
- 「研究分担者」とは、他の大学等の教職員との共同研究において、研究代表者ではない場合である。
- 新規研究には、育児休暇取得に伴い補助金留保となっているもの及び前所属施設で申請されたものも含む。

## 奨学金の受給状況

6看護大学・1短期大学において、日本赤十字社各支部・病院、日本赤十字社看護師同方会、日本学生支援機構及び自治体等の156機関から、全学生の51.9%にあたる1,960人(実人数)(延べ3,112人(昨年度より79人減)、学部・学科在学生の57.7%、大学院在学生の20.7%)が奨学金を受けました。

そのうち、日本赤十字社各支部・病院からの奨学金は、奨学金受給学生3,112人の25.4%にあたる790人が受給しました。「高等教育の修学支援新制度」を利用した学生は376人でした。

また、6看護大学・1短期大学における奨学金の受給総額は、19億1,289万円で、一人あたり(実人数)の受給額は学部で約98万円、大学院では約82万円となりました。

### ●赤十字奨学金の大学別受給状況(令和6年度在学生の実績) 【支部からの受給状況】

※赤十字奨学金を受給している場合に○を付しています。  
また、短期大学での受給はありませんでした。

支部名	北海道看護大学	日本赤十字 秋田看護大学	日本赤十字 看護大学	日本赤十字 豊田看護大学	日本赤十字 広島看護大学	日本赤十字 九州国際看護大学	支部名	北海道看護大学	日本赤十字 秋田看護大学	日本赤十字 看護大学	日本赤十字 豊田看護大学	日本赤十字 広島看護大学	日本赤十字 九州国際看護大学
北海道							滋賀県						
青森県		○					京都府						
岩手県							大阪府					○	○
宮城県							兵庫県						
秋田県							奈良県						
山形県							和歌山県						
福島県		○					鳥取県						
茨城県							島根県						
栃木県							岡山県						
群馬県							広島県						
埼玉県							山口県						
千葉県		○	○		○	○	徳島県						
東京都							香川県						
神奈川県							愛媛県						
新潟県							高知県						
山梨県							福岡県						○
富山県				○			佐賀県						○
石川県							長崎県						○
福井県							熊本県						○
長野県				○			大分県						○
岐阜県				○			宮崎県						○
静岡県				○			鹿児島県						○
愛知県				○			沖縄県						○
三重県				○			合計	0	3	1	6	2	10

【医療施設からの受給状況】

医療施設名		北海道看護大学	日本赤十字 秋田看護大学	日本赤十字 看護大学	日本赤十字 豊田看護大学	日本赤十字 日本看護大学	日本赤十字 九州国際看護大学	医療施設名	北海道看護大学	日本赤十字 秋田看護大学	日本赤十字 看護大学	日本赤十字 豊田看護大学	日本赤十字 日本看護大学	日本赤十字 九州国際看護大学
1	日本赤十字社医療センター			○		○		46	高山赤十字病院					
2	旭川赤十字病院	○						47	岐阜赤十字病院					
3	伊達赤十字病院	○						48	静岡赤十字病院				○	
4	釧路赤十字病院	○						49	浜松赤十字病院			○	○	
5	北見赤十字病院	○						50	伊豆赤十字病院	○				
6	栗山赤十字病院	○						51	裾野赤十字病院					
7	浦河赤十字病院	○						52	日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第一病院				○	
8	小清水赤十字病院	○						53	日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第二病院				○	
9	置戸赤十字病院	○						54	伊勢赤十字病院	○			○	
10	函館赤十字病院	○	○					55	大津赤十字病院					
11	清水赤十字病院	○						56	大津赤十字志賀病院					
12	八戸赤十字病院		○					57	長浜赤十字病院					
13	盛岡赤十字病院							58	京都第一赤十字病院				○	○
14	仙台赤十字病院		○					59	京都第二赤十字病院					
15	石巻赤十字病院		○				○	60	舞鶴赤十字病院					
16	秋田赤十字病院		○					61	大阪赤十字病院					
17	福島赤十字病院	○						62	高槻赤十字病院					
18	水戸赤十字病院			○				63	姫路赤十字病院				○	
19	古河赤十字病院			○				64	多可赤十字病院					
20	芳賀赤十字病院		○					65	神戸赤十字病院					
21	那須赤十字病院		○	○				66	日本赤十字社和歌山医療センター					
22	足利赤十字病院							67	鳥取赤十字病院					○
23	前橋赤十字病院							68	松江赤十字病院					
24	原町赤十字病院			○				69	益田赤十字病院					○
25	さいたま赤十字病院							70	岡山赤十字病院					○
26	小川赤十字病院			○				71	岡山赤十字玉野病院					
27	深谷赤十字病院			○				72	広島赤十字・原爆病院					○
28	成田赤十字病院	○	○	○				73	庄原赤十字病院					○
29	武蔵野赤十字病院		○	○			○	74	三原赤十字病院					
30	大森赤十字病院	○	○	○		○	○	75	山口赤十字病院					○
31	東京かつしか赤十字母子医療センター							76	小野田赤十字病院					
32	みなと赤十字病院	○	○	○	○		○	77	徳島赤十字病院					
33	秦野赤十字病院			○				78	高松赤十字病院				○	○
34	相模原赤十字病院			○				79	松山赤十字病院					○
35	長岡赤十字病院							80	高知赤十字病院					○
36	山梨赤十字病院							81	福岡赤十字病院					○
37	富山赤十字病院							82	今津赤十字病院					
38	金沢赤十字病院							83	嘉麻赤十字病院					
39	福井赤十字病院							84	唐津赤十字病院					
40	長野赤十字病院		○					85	日本赤十字社長崎原爆病院					
41	諏訪赤十字病院							86	日本赤十字社長崎諫早病院					
42	安曇野赤十字病院							87	熊本赤十字病院					○
43	川西赤十字病院							88	大分赤十字病院					○
44	下伊那赤十字病院							89	鹿児島赤十字病院					○
45	飯山赤十字病院							90	沖縄赤十字病院					
合計									16	12	14	7	13	10

事業の概要

# 学校会計の決算状況を報告します

## 1 資金収支決算

資金収支計算書は、当該会計年度の教育・研究その他の活動に対応する全ての収入・支出の内容及び支払資金の動きを明らかにするものです。

### 1 資金収入の部

資金収入合計 **14,294,078**千円（前年度比 **776,269**千円 **増**）

資金収入合計で、**増額**となりました。

（単位：千円）

科目	令和6年度			令和5年度 決算額	対前年度比較	
	予算額	決算額	差異		増減額	増減率(%)
学生生徒等納付金収入	5,802,769	5,614,340	188,429	5,644,412	① △ 30,072	△ 0.5
手数料収入	108,984	102,903	6,081	99,451	3,452	3.5
寄付金収入	196,416	358,112	△ 161,696	324,124	② 33,988	10.5
補助金収入	1,190,237	1,213,994	△ 23,757	1,162,714	③ 51,280	4.4
資産売却収入	0	239	△ 239	0	239	—
付随事業・収益事業収入	54,917	25,542	29,375	23,938	1,604	6.7
受取利息・配当金収入	113,060	122,446	△ 9,386	108,290	④ 14,156	13.1
雑収入	32,002	44,163	△ 12,161	43,185	978	2.3
借入金等収入	0	0	0	0	0	—
前受金収入	458,840	433,354	25,486	436,322	△ 2,968	△ 0.7
その他の収入	2,114,038	2,487,881	△ 373,843	2,157,915	329,966	15.3
資金収入調整勘定	△ 557,280	△ 529,865	△ 27,415	△ 590,257	60,392	△ 10.2
前年度繰越支払資金	4,420,960	4,420,963	△ 3	4,107,711	⑤ 313,252	7.6
<b>合計</b>	<b>13,934,943</b>	<b>14,294,078</b>	<b>△ 359,135</b>	<b>13,517,809</b>	<b>776,269</b>	<b>5.7</b>

\*千円未満を切り捨てて表示しているため、合計額が一致しないことがある。

### ① 学生生徒等納付金収入 前年度比 **30,072**千円 **減**

→北海道看護大学及び秋田短期大学の在学生数の減少等により、前年度比**30,072**千円の**減額**となりました。

### ② 寄付金収入 前年度比 **33,988**千円 **増**

→教育基盤整備事業に対する日本赤十字社からの助成金の増加等により、前年度比**33,988**千円の**増額**となりました。

### ③ 補助金収入 前年度比 **51,280**千円 **増**

→日本赤十字看護大学さいたま看護学部が開設後完成年度を超えたことによる経常費補助金の増加等により、前年度比**51,280**千円の**増額**となりました。

### ④ 受取利息・配当金収入 前年度比 **14,156**千円 **増**

→国内債券及び銀行預金の金利上昇等により、前年度比**14,156**千円の**増額**となりました。

### ⑤ 前年度繰越支払資金 前年度比 **313,252**千円 **増**

→前年度繰越支払資金（現預金）は、前年度比**313,252**千円の**増額**となりました。

## 2 資金支出の部

資金支出合計 **14,294,078**千円（前年度比 **776,269**千円 **増**）

資金支出合計で、**増額**となりました。

（単位：千円）

科目	令和6年度			令和5年度 決算額	対前年度比較	
	予算額	決算額	差異		増減額	増減率(%)
人件費支出	4,697,844	4,658,324	39,520	4,573,262	<b>① 85,062</b>	1.9
教育研究経費支出	2,172,144	2,018,834	153,310	1,740,662	<b>② 278,172</b>	16.0
管理経費支出	467,389	397,468	69,921	385,255	12,213	3.2
借入金等利息支出	0	0	0	0	0	—
借入金等返済支出	0	0	0	0	0	—
施設関係支出	680,343	583,753	96,590	130,387	<b>③ 453,366</b>	347.7
設備関係支出	534,876	552,552	△ 17,676	217,390	<b>④ 335,162</b>	154.2
資産運用支出	378,383	472,228	△ 93,845	414,396	<b>⑤ 57,832</b>	14.0
その他の支出	1,922,128	2,151,764	△ 229,636	2,176,132	△ 24,368	△ 1.1
予備費	1,100	0	1,100	0	0	—
資金支出調整勘定	△ 787,209	△ 890,690	103,481	△ 540,644	△ 350,046	64.7
翌年度繰越支払資金	3,867,945	4,349,841	△ 481,896	4,420,963	<b>⑥ △ 71,122</b>	△ 1.6
<b>合計</b>	<b>13,934,943</b>	<b>14,294,078</b>	<b>△ 359,135</b>	<b>13,517,809</b>	<b>776,269</b>	<b>5.7</b>

\*千円未満を切り捨てて表示しているため、合計額が一致しないことがある。

### ①人件費支出 前年度比**85,062**千円 **増**

→北海道看護大学、秋田看護大学、豊田看護大学及び九州国際看護大学における教職員の確保に伴う人件費支出の増加等により、前年度比**85,062**千円の**増額**となりました。

### ②教育研究経費支出 前年度比**278,172**千円 **増**

→豊田看護大学、九州国際看護大学における校舎等の改修に伴う修繕費支出等経費の増加により、前年度比**278,172**千円の**増額**となりました。

### ③施設関係支出 前年度比**453,366**千円 **増**

→秋田看護大学、豊田看護大学及び九州国際看護大学における校舎等の空調設備更新等により、**453,366**千円の**増額**となりました。

### ④設備関係支出 前年度比**335,162**千円 **増**

→広島看護大学及び九州国際看護大学における情報システム更新に伴う教育研究用機器備品支出等の増加により、前年度比**335,162**千円の**増額**となりました。

### ⑤資産運用支出 前年度比**57,832**千円 **増**

→各大学が計上した施設設備整備引当特定資産への繰入支出の増加等により、前年度比**57,832**千円の**増額**となりました。

### ⑥翌年度繰越支払資金 前年度比**71,122**千円 **減**

→翌年度繰越支払資金（現預金）は、前年度比**71,122**千円の**減額**となりました。

## 2

事業活動  
収支決算

事業活動収支計算書は、学生生徒等納付金等本業の教育活動に対する「教育活動収支」、受取利息等財務活動に対する「教育活動外収支」及び資産売却等臨時的な活動に対する「特別収支」の3つに区分して表示しています。

また、本計算書は、当該会計年度の事業活動収入及び事業活動支出の内容並びに基本金組入額及び基本金取崩額等を含め、事業収支の均衡状態を示すものです。

(単位：千円)

区分	科目	令和6年度			令和5年度 決算額	対前年度比較		
		予算額	決算額	差異		増減額	増減率(%)	
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	5,802,769	5,614,340	188,429	5,644,412	① △ 30,072	△ 0.5
		手数料	108,984	102,903	6,081	99,451	3,452	3.5
		寄付金	128,114	238,065	△ 109,951	183,625	② 54,440	29.6
		経常費等補助金	1,190,237	1,213,994	△ 23,757	1,137,178	③ 76,816	6.8
		付随事業収入	54,917	25,542	29,375	23,938	1,604	6.7
		雑収入	33,043	46,090	△ 13,047	43,811	2,279	5.2
	計	7,318,064	7,240,936	77,128	7,132,418	108,518	1.5	
	事業活動支出の部	人件費	4,543,452	4,494,970	48,482	4,408,324	⑤ 86,646	2.0
		教育研究経費	2,926,862	2,773,564	153,298	2,468,503	⑥ 305,061	12.4
		管理経費	497,462	433,226	64,236	423,299	9,927	2.3
徴収不能額等		0	0	0	1,115	△ 1,115	—	
計		7,967,776	7,701,760	266,016	7,301,243	400,517	5.5	
教育活動収支差額		△ 649,712	△ 460,824	△ 188,888	△ 168,824	△ 292,000	173.0	
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	113,060	122,446	△ 9,386	108,290	14,156	13.1
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0	—
		計	113,060	122,446	△ 9,386	108,290	14,156	13.1
	事業活動支出の部	借入金等利息	0	0	0	0	0	—
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0	—
		計	0	0	0	0	0	—
教育活動外収支差額		113,060	122,446	△ 9,386	108,290	14,156	13.1	
経常収支差額		△ 536,652	△ 338,378	△ 198,274	△ 60,534	△ 277,844	459.0	
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	0	239	△ 239	0	239	—
		その他の特別収入	72,024	138,000	△ 65,976	181,457	④ △ 43,457	△ 23.9
		計	72,024	138,239	△ 66,215	181,457	△ 43,218	△ 23.8
	事業活動支出の部	資産処分差額	7,400	42,058	△ 34,658	22,190	⑦ 19,868	89.5
		その他の特別支出	0	1,206	△ 1,206	327	879	268.8
		計	7,400	43,265	△ 35,865	22,517	20,748	92.1
特別収支差額		64,624	94,974	△ 30,350	158,939	△ 63,965	△ 40.2	
予備費		1,100	0	1,100	0	0	—	
基本金組入前当年度収支差額		△ 473,128	△ 243,403	△ 229,725	98,405	△ 341,808	△ 347.3	
基本金組入額合計		△ 676,395	△ 309,175	△ 367,220	△ 131,078	△ 178,097	135.9	
当年度収支差額		△ 1,149,523	△ 552,579	△ 596,944	△ 32,672	△ 519,907	1591.3	
前年度繰越収支差額		△ 1,011,973	△ 1,011,973	0	△ 1,010,180	△ 1,793	0.2	
基本金取崩額		0	20,970	△ 20,970	30,879	△ 9,909	△ 32.1	
翌年度繰越収支差額		△ 2,161,496	△ 1,543,583	△ 617,913	△ 1,011,973	△ 531,610	52.5	
参考	事業活動収入計	7,503,148	7,501,622	1,526	7,422,166	79,456	1.1	
	事業活動支出計	7,976,276	7,745,026	231,250	7,323,761	421,265	5.8	

\*千円未満を切り捨てて表示しているため、合計額が一致しないことがある。

## 1 事業活動収入の部

### ① 学生生徒等納付金 前年度比30,072千円 減

→北海道看護大学及び秋田短期大学の在学生数の減少等により、前年度比30,072千円の減額となりました。

### ② 寄付金 前年度比54,440千円 増

→教育基盤整備事業に対する日本赤十字社からの助成金の増加等により、前年度比54,440千円の増額となりました。

### ③ 経常費等補助金 前年度比76,816千円 増

→日本赤十字看護大学さいたま看護学部が開設後完成年度を超えたことによる経常費補助金の増加等により、前年度比76,816千円の増額となりました。

### ④ その他の特別収入 前年度比43,457千円 減

→前年度実施した豊田看護大学の開学20周年記念事業にかかる寄付金及び九州国際看護大学の情報通信機器整備に対する国庫補助金の減少等により、前年度比43,457千円の減額となりました。

## 2 事業活動支出の部

### ⑤ 人件費 前年度比86,646千円 増

→北海道看護大学、秋田看護大学、豊田看護大学及び九州国際看護大学における教職員の確保に伴う人件費の増加等により、前年度比86,646千円の増額となりました。

### ⑥ 教育研究経費 前年度比305,061千円 増

→豊田看護大学、九州国際看護大学における校舎等の改修に伴う修繕費等経費の増加及び各大学の減価償却額の増加等により、前年度比305,061千円の増額となりました。

### ⑦ 資産処分差額 前年度比19,868千円 増

→秋田看護大学、豊田看護大学における校舎等の改修に伴う施設処分差額の増加等により、前年度比19,868千円の増額となりました。

## 3 基本金組入額等

基本金組入額とは、学校法人の永続的維持に必要な資産を継続的に保持するため、維持すべきものとして事業活動収入から組み入れた金額です。

令和6年度は、基本金全体としては、309,175千円を組み入れ、20,970千円を取り崩しました。

(参考) 基本金には、第1号基本金から第4号基本金まで4種類あります。

- 第1号基本金は、施設設備の整備拡充のために支出した金額であり、令和6年度は5大学で合わせて306,175千円を組み入れ、法人本部、広島看護大学及び秋田短期大学で合わせて20,970千円を取り崩しました。
- 第3号基本金は、教育・研究活動の維持向上を目的とした教育研究基金及び奨学基金等で、令和6年度の組み入れはありません。
- 第4号基本金は、恒常的な資金の維持のためのもので、令和6年度は法人本部で3,000千円を組み入れました。

資産の部、負債及び純資産の部の科目ごとに、当該会計年度末の額を前年度会計年度末の額と比較して、当該会計年度末の財産の状況を表すものです。

## 1 資産の部

(単位：千円)

科目		年度	令和6年度	令和5年度	増減
資産の部	固定資産		44,388,882	44,459,692	△ 70,810
	有形固定資産		22,796,772	22,608,284	① 188,488
	特定資産		21,394,166	21,787,613	② △ 393,447
	その他の固定資産		197,942	63,794	③ 134,148
	流動資産		4,561,650	4,564,871	④ △ 3,221
	資産の部合計		48,950,532	49,024,563	△ 74,031

\*千円未満を切り捨てて表示しているため、合計が一致しないことがある。

## 【資産の部】

## ①有形固定資産 前年度比188,488千円 増

→減価償却等による減少の一方、豊田看護大学、広島看護大学及び九州国際看護大学の教育研究用機器備品の整備をはじめ、各大学の固定資産の整備により増加しました。

## ②特定資産 前年度比393,447千円 減

→施設設備の更新等に伴い、施設設備整備引当特定資産及び退職給与引当特定資産が減少しました。

## ③その他の固定資産 前年度比134,148千円 増

→広島看護大学のソフトウェアの整備等により増加しました。

## ④流動資産 前年度比3,221千円 減

→前払金の増加の影響もあり、現金預金等が減少しました。

## 2 負債・純資産の部

(単位：千円)

科目		年度	令和6年度	令和5年度	増減
負債の部	固定負債		1,800,237	1,974,472	① △ 174,235
	流動負債		1,578,340	1,234,731	② 343,609
	負債の部合計		3,378,577	3,209,204	169,373
純資産の部	基本金		47,115,538	46,827,332	③ 288,206
	繰越収支差額		△ 1,543,583	△ 1,011,973	④ △ 531,610
	純資産の部合計		45,571,955	45,815,358	△ 243,403
負債及び純資産の部合計			48,950,532	49,024,563	△ 74,031

\*千円未満を切り捨てて表示しているため、合計が一致しないことがある。

### 【負債の部】

① 固定負債 前年度比**174,235千円** ↓ 減

→退職給与引当金の影響により**減少**しました。

② 流動負債 前年度比**343,609千円** ↑ 増

→年度末に計上した未払金により**増加**しました。

### 【純資産の部】

③ 基本金 前年度比**288,206千円** ↑ 増

→第1号基本金は、秋田看護大学、豊田看護大学及び九州国際看護大学の空調設備更新等の固定資産取得による組み入れにより**増加**しました。

また、第4号基本金は、恒常的な資金の維持として計上した資金の組み入れにより若干**増加**しました。

④ 繰越収支差額 前年度比**531,610千円** ↓ 減

→基本金組入額及び有形固定資産の減価償却による減等により、繰越収支差額は**減少**しました。

## 4 財産目録

財産目録は、令和7年3月31日現在の基本財産、運用財産、負債額を示したものです。

①資産総額 **48,950,532,708円**

→内 基本財産 **22,938,970,515円**  
運用財産 **26,011,562,193円**

②負債総額 **3,378,577,590円**

正味財産 **45,571,955,118円**

(単位：円)

科目	数量	金額
<b>①資産</b>		<b>48,950,532,708</b>
1 基本財産		22,938,970,515
(1) 土地 (校舎敷地、運動場等)	205,651.48㎡	7,270,018,309
(2) 建物 (校舎、図書館、体育館等)	104,561.51㎡	12,732,580,457
(3) 図書 (和書、洋書、視聴覚資料12,648点)	365,012冊	1,687,067,086
(4) 教具等 (教具、校具、管理用備品)	20,444点	998,720,706
(5) 構築物 (道路舗装工事他)		98,455,773
(6) その他 (車両、電話加入権等)		152,128,184
2 運用財産		26,011,562,193
(1) 預金・現金		4,349,841,616
(2) 積立金 (施設設備整備引当特定資産等)		21,394,166,760
(3) 有価証券 (国債等)		51,983,046
(4) 不動産 (土地)		163,584
(5) 長期貸付金 (奨学金)		3,476,000
(6) 差入保証金 (敷金等)		122,230
(7) 未収入金 (地方公共団体補助金等)		96,899,398
(8) 前払金・立替金・短期貸付金		114,909,559
<b>②負債</b>		<b>3,378,577,590</b>
1 固定負債 (長期末払金、退職給与引当金)		1,800,237,016
2 流動負債 (前受金、未払金、預り金)		1,578,340,574
借用財産		
1 土地 (校舎敷地等)	66,534.16㎡	
2 建物 (寄宿舎等)	3,619.34㎡	

# 5 参考

## 1 過去5ヵ年の資金収支計算書(学校法人全体)

(単位：千円)

科目	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度			
	金額	構成比率(%)	金額	構成比率(%)	金額	構成比率(%)	金額	構成比率(%)	金額	構成比率(%)	対前年比(%)	
資金収入の部	学生生徒等納付金収入	5,377,575	41.5	5,508,670	42.4	5,603,905	42.9	5,644,412	41.8	5,614,340	39.3	99.5
	手数料収入	118,327	0.9	120,777	0.9	108,334	0.8	99,451	0.7	102,903	0.7	103.5
	寄付金収入	147,096	1.1	185,734	1.4	229,974	1.8	324,124	2.4	358,112	2.5	110.5
	補助金収入	1,037,602	8.0	1,096,770	8.4	1,154,467	8.8	1,162,714	8.6	1,213,994	8.5	104.4
	資産売却収入	5	0.0	895	0.0	100,000	0.8	0	0.0	239	0.0	—
	付随事業・収益事業収入	40,623	0.3	74,485	0.6	39,135	0.3	23,938	0.2	25,542	0.2	106.7
	受取利息・配当金収入	109,384	0.8	110,260	0.8	102,090	0.8	108,290	0.8	122,446	0.9	113.1
	前受金収入	480,818	3.7	471,534	3.6	463,648	3.6	436,322	3.2	433,354	3.0	99.3
	その他の収入等	1,921,148	14.8	1,708,845	13.1	1,962,193	15.0	2,201,100	16.3	2,532,044	17.7	115.0
	資金収入調整勘定	△ 583,450	△ 4.5	△ 603,077	△ 4.6	△ 581,879	△ 4.5	△ 590,257	△ 4.4	△ 529,865	△ 3.7	89.8
	前年度繰越支払資金	4,319,827	33.3	4,332,565	33.3	3,878,340	29.7	4,107,711	30.4	4,420,963	30.9	107.6
	資金収入合計	12,968,960	100.0	13,007,463	100.0	13,060,208	100.0	13,517,809	100.0	14,294,078	100.0	105.7
資金支出の部	人件費支出	4,259,933	32.8	4,381,501	33.7	4,567,036	35.0	4,573,262	33.8	4,658,324	32.6	101.9
	教育研究経費支出	1,499,489	11.6	1,593,166	12.2	1,673,571	12.8	1,740,662	12.9	2,018,834	14.1	116.0
	管理経費支出	335,367	2.6	381,439	2.9	353,969	2.7	385,255	2.8	397,468	2.8	103.2
	借入金等利息・返済支出	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	—
	施設関係支出	312,213	2.4	551,254	4.2	208,429	1.6	130,387	1.0	583,753	4.1	447.7
	設備関係支出	274,849	2.1	209,706	1.6	248,736	1.9	217,390	1.6	552,552	3.9	254.2
	資産運用支出	376,409	2.9	620,584	4.8	557,047	4.3	414,396	3.1	472,228	3.3	114.0
	その他支出	2,003,851	15.5	1,770,054	13.6	1,889,543	14.5	2,176,132	16.1	2,151,764	15.1	98.9
	資金支出調整勘定	△ 425,719	△ 3.3	△ 378,584	△ 2.9	△ 545,837	△ 4.2	△ 540,644	△ 4.0	△ 890,690	△ 6.2	164.7
	翌年度繰越支払資金	4,332,565	33.4	3,878,340	29.8	4,107,711	31.5	4,420,963	32.7	4,349,841	30.4	98.4
	資金支出合計	12,968,960	100.0	13,007,463	100.0	13,060,208	100.0	13,517,809	100.0	14,294,078	100.0	105.7

\*資金収支においては、その年度の現金の動きを表示していることから、収入合計と支出合計額が一致している。

\*千円未満を切り捨てて表示しているため、合計額が一致しないことがある。

\*学校法人全体の資金収支計算書においては、各部門間の内部取引収入および支出は相殺されている。

\*各科目の構成比率は、それぞれの合計に占める割合となっている。

## 2 過去5カ年の事業活動収支計算書(学校法人全体)

(単位：千円)

科目	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度				
	金額	構成比率(%)	金額	構成比率(%)	金額	構成比率(%)	金額	構成比率(%)	金額	構成比率(%)	対前年比(%)		
教育活動収入の部	学生生徒等納付金	5,377,575	78.1	5,508,670	77.1	5,603,905	76.9	5,644,412	76.0	5,614,340	74.8	99.5	
	手数料	118,327	1.7	120,777	1.7	108,334	1.5	99,451	1.3	102,903	1.4	103.5	
	寄付金	82,304	1.2	62,759	0.9	113,941	1.6	183,625	2.5	238,065	3.2	129.6	
	経常費等補助金	972,345	14.1	1,081,798	15.1	1,134,522	15.6	1,137,178	15.3	1,213,994	16.2	106.8	
	付随事業収入	40,623	0.6	74,485	1.0	39,135	0.5	23,938	0.3	25,542	0.3	106.7	
	雑収入	40,043	0.6	37,103	0.5	34,556	0.5	43,811	0.6	46,090	0.6	105.2	
	計	6,631,221	96.2	6,885,594	96.4	7,034,395	96.5	7,132,418	96.1	7,240,936	96.5	101.5	
教育活動支出の部	人件費	4,415,988	62.1	4,537,391	61.3	4,629,388	61.8	4,408,324	60.2	4,494,970	58.0	102.0	
	教育研究経費	2,300,643	32.4	2,435,006	32.9	2,442,619	32.6	2,468,503	33.7	2,773,564	35.8	112.4	
	管理経費	367,448	5.2	417,832	5.6	391,518	5.2	423,299	5.8	433,226	5.6	102.3	
	徴収不能額等	420	0.0	106	0.0	125	0.0	1,115	0.0	0	0.0	—	
	計	7,084,501	99.6	7,390,337	99.8	7,463,651	99.7	7,301,243	99.7	7,701,760	99.4	105.5	
教育活動収支差額	△ 453,279	—	△ 504,742	—	△ 429,256	—	△ 168,824	—	△ 460,824	—	273.0		
教育活動外収入の部	受取利息・配当金	109,384	1.6	110,260	1.5	102,090	1.4	108,290	1.5	122,446	1.6	113.1	
	その他の教育活動外収入	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	—	
	計	109,384	1.6	110,260	1.5	102,090	1.4	108,290	1.5	122,446	1.6	113.1	
	教育活動外支出の部	借入金等利息	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	—
		その他の教育活動外支出	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	—
計	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	—		
教育活動外収支差額	109,384	—	110,260	—	102,090	—	108,290	—	122,446	—	113.1		
経常収支差額	△ 343,895	—	△ 394,482	—	△ 327,166	—	△ 60,534	—	△ 338,378	—	559.0		
特別収入の部	資産売却差額	2,044	0.0	895	0.0	99	0.0	0	0.0	239	0.0	—	
	その他の特別収入	146,931	2.1	147,379	2.1	150,002	2.1	181,457	2.4	138,000	1.8	76.1	
	計	148,975	2.2	148,274	2.1	150,101	2.1	181,457	2.4	138,239	1.8	76.2	
	特別支出の部	資産処分差額	21,962	0.3	15,380	0.2	24,945	0.3	22,190	0.3	42,058	0.5	189.5
		その他の特別支出	3,818	0.1	850	0.0	579	0.0	327	0.0	1,206	0.0	368.8
計	25,780	0.4	16,231	0.2	25,525	0.3	22,517	0.3	43,265	0.6	192.1		
特別収支差額	123,194	—	132,043	—	124,576	—	158,939	—	94,974	—	59.8		
基本金組入前当年度収支差額	△ 220,700	—	△ 262,438	—	△ 202,589	—	98,405	—	△ 243,403	—	△ 247.3		
基本金組入額合計	△ 2,854,408	—	△ 616,688	—	△ 68,398	—	△ 131,078	—	△ 309,175	—	235.9		
当年度収支差額	△ 3,075,109	—	△ 879,127	—	△ 270,988	—	△ 32,672	—	△ 552,579	—	1,691.3		
前年度繰越収支差額	405,667	—	36,285	—	△ 777,207	—	△ 1,010,180	—	△ 1,011,973	—	100.2		
基本金取崩額	2,705,727	—	65,633	—	38,016	—	30,879	—	20,970	—	67.9		
翌年度繰越収支差額	36,285	—	△ 777,207	—	△ 1,010,180	—	△ 1,011,973	—	△ 1,543,583	—	152.5		

(参考)

事業活動収入計	6,889,581	100.0	7,144,129	100.0	7,286,587	100.0	7,422,166	100.0	7,501,622	100.0	101.1
事業活動支出計	7,110,282	100.0	7,406,568	100.0	7,489,177	100.0	7,323,761	100.0	7,745,026	100.0	105.8

\*千円未満を切り捨てて表示しているため、合計額が一致しないことがある。

\*学校法人全体の事業活動収支計算書においては、各部門間の内部取引収入及び支出は相殺されている。

\*各科目の構成比率は、事業活動収入計及び支出計に対して、それぞれに占める割合となっている。

### 3 過去5カ年の貸借対照表(学校法人全体)

(単位：千円)

科目	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度			
	金額	構成比率 (%)	金額	構成比率 (%)	金額	構成比率 (%)	金額	構成比率 (%)	金額	構成比率 (%)	対前年比 (%)	
資産の部	固定資産	44,799,547	90.9	45,105,553	91.8	44,886,814	91.4	44,459,692	90.7	44,388,882	90.7	99.8
	有形固定資産	23,459,533	47.6	23,361,731	47.6	23,022,542	46.9	22,608,284	46.1	22,796,772	46.6	100.8
	特定資産	21,117,332	42.9	21,548,793	43.9	21,792,175	44.4	21,787,613	44.4	21,394,166	43.7	98.2
	その他の固定資産	222,681	0.5	195,028	0.4	72,096	0.1	63,794	0.1	197,942	0.4	310.3
	流動資産	4,466,062	9.1	4,013,629	8.2	4,233,325	8.6	4,564,871	9.3	4,561,650	9.3	99.9
	うち現金預金	4,332,565	8.8	3,878,340	7.9	4,107,711	8.4	4,420,963	9.0	4,349,841	8.9	98.4
	<b>資産の部合計</b>	<b>49,265,610</b>	100.0	<b>49,119,183</b>	100.0	<b>49,120,139</b>	100.0	<b>49,024,563</b>	100.0	<b>48,950,532</b>	100.0	99.8

(単位：千円)

科目	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度			
	金額	構成比率 (%)	対前年比 (%)									
負債の部	固定負債	1,915,265	3.9	2,066,019	4.2	2,145,511	4.4	1,974,472	4.0	1,800,237	3.7	91.2
	流動負債	1,168,362	2.4	1,133,620	2.3	1,257,675	2.6	1,234,731	2.5	1,578,340	3.2	127.8
	うち前受金	483,718	1.0	472,984	1.0	463,648	0.9	436,322	0.9	434,579	0.9	99.6
	<b>負債の部合計</b>	<b>3,083,628</b>	6.3	<b>3,199,639</b>	6.5	<b>3,403,186</b>	6.9	<b>3,209,204</b>	6.5	<b>3,378,577</b>	6.9	105.3
純資産の部	基本金	46,145,696	93.7	46,696,750	95.1	46,727,133	95.1	46,827,332	95.5	47,115,538	96.3	100.6
	第1号基本金	41,743,696	84.7	42,280,750	86.1	42,299,133	86.1	42,399,332	86.5	42,684,538	87.2	100.7
	第2号基本金	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	—
	第3号基本金	3,930,000	8.0	3,930,000	8.0	3,930,000	8.0	3,930,000	8.0	3,930,000	8.0	100.0
	第4号基本金	472,000	1.0	486,000	1.0	498,000	1.0	498,000	1.0	501,000	1.0	100.6
	繰越収支差額	36,285	0.1	△ 777,207	△ 1.6	△ 1,010,180	△ 2.1	△ 1,011,973	△ 2.1	△ 1,543,583	△ 3.2	152.5
	<b>純資産の部合計</b>	<b>46,181,981</b>	93.7	<b>45,919,543</b>	93.5	<b>45,716,953</b>	93.1	<b>45,815,358</b>	93.5	<b>45,571,955</b>	93.1	99.5
<b>負債の部、純資産の部合計</b>	<b>49,265,610</b>	100.0	<b>49,119,183</b>	100.0	<b>49,120,139</b>	100.0	<b>49,024,563</b>	100.0	<b>48,950,532</b>	100.0	99.8	

\*千円未満を切り捨てて表示しているため、合計額が一致しないことがある。

# 人道の理念に基づき、日本の看護・介護

## 学園の沿革

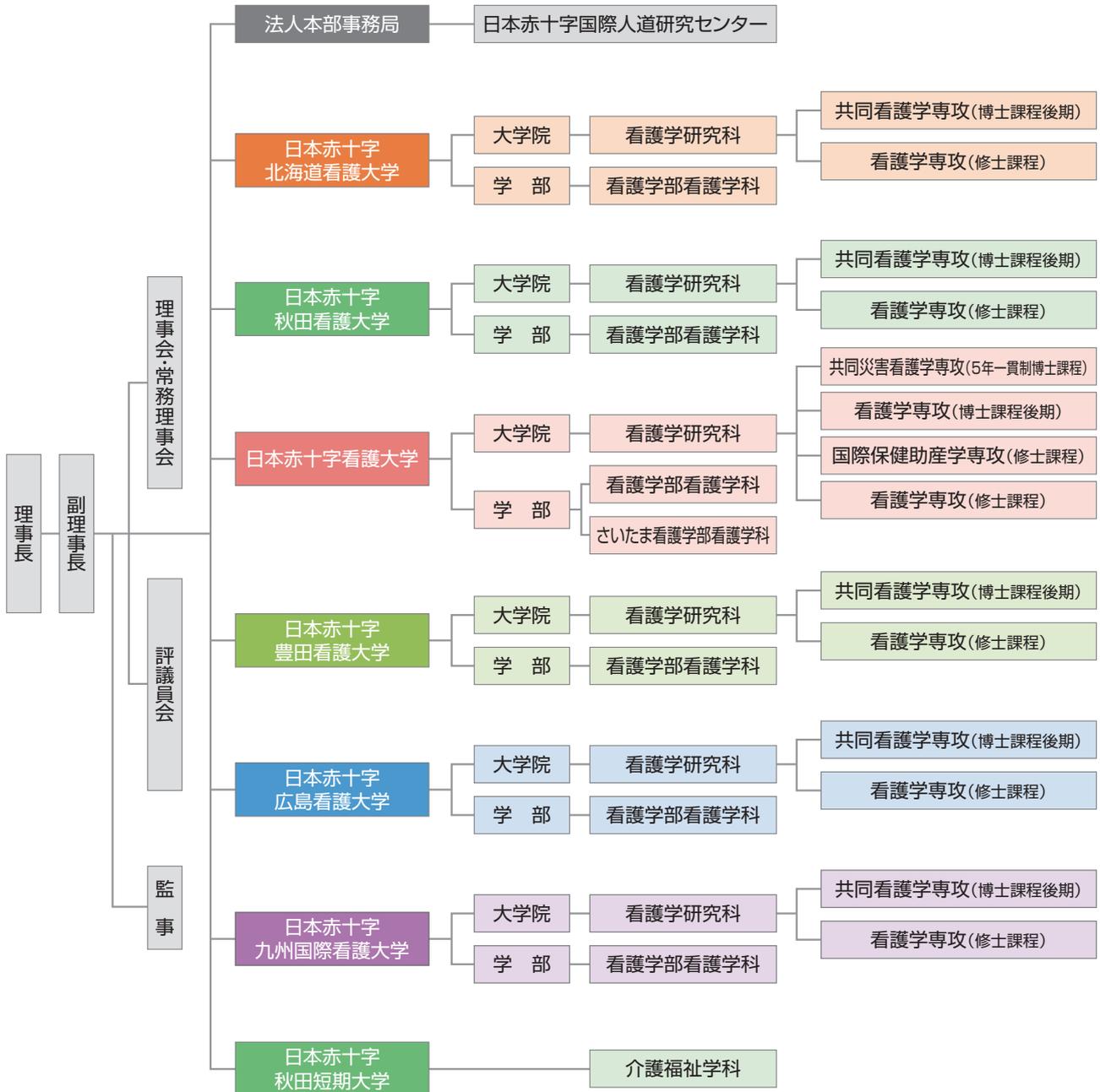
令和7年3月31日 現在

明治10年 (1877年)	博愛社を設立	
明治20年 (1887年)	博愛社から日本赤十字社に改称	
明治23年 (1890年)	日本赤十字社看護婦養成所を設立	
昭和21年 (1946年)	日本赤十字女子専門学校に昇格 財団法人日本赤十字女子専門学校を設立	
昭和29年 (1954年)	財団法人日本赤十字女子専門学校を学校法人日本赤十字女子短期大学に改組 日本赤十字女子短期大学を設立	
昭和41年 (1966年)	学校法人日本赤十字女子短期大学を学校法人日本赤十字学園に改称 日本赤十字女子短期大学を日本赤十字中央女子短期大学に改称 日本赤十字武蔵野女子短期大学看護学科を開設	
昭和50年 (1975年)	学校法人日本赤十字学園大阪高等看護学校を開設	
昭和53年 (1978年)	学校法人日本赤十字学園大阪高等看護学校を学校法人日本赤十字学園大阪看護専門学校に改称	
昭和61年 (1986年)	日本赤十字看護大学看護学部看護学科を開設	
昭和63年 (1988年)	日本赤十字中央女子短期大学を閉校	
平成元年 (1989年)	日本赤十字愛知女子短期大学看護学科を開設 学校法人日本赤十字学園大阪看護専門学校を閉校	
平成5年 (1993年)	日本赤十字看護大学大学院看護学研究科修士課程を開設	
平成7年 (1995年)	日本赤十字看護大学大学院看護学研究科博士課程後期を開設	
平成8年 (1996年)	日本赤十字秋田短期大学看護学科・介護福祉学科を開設	
平成9年 (1997年)	日本赤十字武蔵野女子短期大学を日本赤十字武蔵野短期大学に改称 日本赤十字愛知女子短期大学を日本赤十字愛知短期大学に改称	
平成11年 (1999年)	日本赤十字北海道看護大学看護学部看護学科を開設	
平成12年 (2000年)	日本赤十字広島看護大学看護学部看護学科を開設	
平成13年 (2001年)	日本赤十字九州国際看護大学看護学部看護学科を開設	
平成15年 (2003年)	日本赤十字北海道看護大学大学院看護学研究科修士課程を開設	
平成16年 (2004年)	日本赤十字豊田看護大学看護学部看護学科を開設 日本赤十字広島看護大学大学院看護学研究科修士課程を開設	
平成17年 (2005年)	日本赤十字看護大学と日本赤十字武蔵野短期大学が統合	
平成18年 (2006年)	日本赤十字愛知短期大学を閉校	
平成19年 (2007年)	日本赤十字武蔵野短期大学を閉校 日本赤十字九州国際看護大学大学院看護学研究科修士課程を開設	
平成21年 (2009年)	日本赤十字秋田看護大学看護学部看護学科を開設	
平成22年 (2010年)	日本赤十字豊田看護大学大学院看護学研究科修士課程を開設	
平成23年 (2011年)	日本赤十字秋田短期大学看護学科を閉科 日本赤十字秋田看護大学大学院看護学研究科修士課程を開設	
平成26年 (2014年)	日本赤十字看護大学大学院看護学研究科共同災害看護学専攻博士課程を開設 (国公立5大学の共同教育課程)	
平成28年 (2016年)	日本赤十字北海道看護大学大学院看護学研究科共同看護学専攻博士課程後期を開設 日本赤十字秋田看護大学大学院看護学研究科共同看護学専攻博士課程後期を開設 日本赤十字豊田看護大学大学院看護学研究科共同看護学専攻博士課程後期を開設 日本赤十字広島看護大学大学院看護学研究科共同看護学専攻博士課程後期を開設 日本赤十字九州国際看護大学大学院看護学研究科共同看護学専攻博士課程後期を開設 (赤十字5大学の共同教育課程)	
令和2年 (2020年)	日本赤十字看護大学さいたま看護学部看護学科を開設	

# 福祉を支える多くの人材を育成しています。

## 学園の組織

令和7年3月31日 現在



※令和7年4月1日より、日本赤十字秋田看護大学・日本赤十字秋田短期大学は日本赤十字東北看護大学・日本赤十字東北看護大学介護福祉短期大学部へ名称を変更しました。

## 教職員の概要

令和6年5月1日 現在

(単位:人)

教授	准教授	講師	助教	助手	事務職	教職員合計
90	75	66	77	18	203	529

## 役員・評議員一覧

令和7年3月31日 現在

### ◆理事(13名)

理事長	富田 博樹	令和4年7月就任	日本赤十字社 特別顧問
副理事長	鈴木 俊彦	令和4年7月就任	日本赤十字社 副社長
常務理事	渡部 洋一	令和4年4月就任	日本赤十字社 医療事業推進本部 本部長
	川上 潤子	令和6年4月就任	日本赤十字社 医療事業推進本部 副本部長兼看護部長
	松野 千郷	令和6年4月就任	学校法人日本赤十字学園 法人本部 事務局長
	田村 由美	令和6年4月就任	日本赤十字広島看護大学 学長
理事	原 玲子	令和3年4月就任	日本赤十字秋田看護大学・日本赤十字秋田短期大学 学長
	百瀬 由美子	令和6年4月就任	日本赤十字豊田看護大学 学長
	根本 とよ子	令和5年4月就任	一般財団法人日本赤十字社看護師同方会 理事
	矢部 信栄	令和4年7月就任	日本赤十字社全国支部事務局長会 会長 (日本赤十字社東京都支部 事務局長)
	片田 範子	平成30年4月就任	公立大学法人三重県立看護大学 理事長・学長
	久保 公人	平成30年4月就任	尚美学園大学 名誉教授
	藤原 誠	令和4年4月就任	東京国立博物館長

### ◆監事(2名)

監事	竹内 賢治	令和2年4月就任	日本赤十字社 参与
	岡原 宏一	令和2年4月就任	公認会計士岡原事務所 所長

### ◆評議員(27名)

安酸 史子	日本赤十字北海道看護大学 学長	富田 博樹	日本赤十字社 特別顧問
守田 美奈子	日本赤十字看護大学 学長	鈴木 俊彦	日本赤十字社 副社長
池松 裕子	日本赤十字九州国際看護大学 学長	渡部 洋一	日本赤十字社 医療事業推進本部 本部長
小川 里美	日本赤十字九州国際看護大学 看護学部長	川上 潤子	日本赤十字社 医療事業推進本部 副本部長兼看護部長
志賀 加奈子	日本赤十字北海道看護大学大学院 看護学研究科長	矢部 信栄	日本赤十字社全国支部事務局長会 会長 (日本赤十字社東京都支部 事務局長)
小林 寿	日本赤十字豊田看護大学 事務局長	牧野 憲一	日本赤十字社病院長連盟 会長(旭川赤十字病院 院長)
松野 千郷	学校法人日本赤十字学園 法人本部 事務局長	岩崎 佳子	赤十字医療施設看護部長会 会長(長岡赤十字病院 看護部長)
高柴 律子	日本赤十字社 医療事業推進本部 看護部 調整監	服部 亮市	日本赤十字社 参与
小山 和子	元 鳥取赤十字病院 副院長兼看護部長	勝又 浜子	公益財団法人日本看護協会 副会長
根本 とよ子	一般財団法人日本赤十字社看護師同方会 理事	飯野 奈津子	医療福祉ジャーナリスト
田島 恵子	元 深谷赤十字病院 副院長兼看護部長	小野 太一	国立大学法人政策研究大学院大学 教授
中野 玲子	藍野大学 医療保健学部看護学科 特任教授	中島 正治	公益財団法人結核予防会 理事
畠山 悦子	元 長野赤十字病院 看護部長	藤原 誠	東京国立博物館長
望月 律子	元 静岡赤十字病院 副院長兼看護部長		

## 理事会・常務理事会・評議員会の開催状況

理事会	第1回(参集・Web会議) 令和6年5月27日(月) 第2回(参集・Web会議) 令和6年12月4日(水)	臨時(Web会議) 令和6年8月30日(金) 第3回(参集・Web会議) 令和7年3月21日(金)
常務理事会	第1回(Web会議) 令和6年4月8日(月) 第3回(Web会議) 令和6年6月10日(月) 第5回(Web会議) 令和6年10月7日(月) 第7回(Web会議) 令和7年2月3日(月)	第2回(Web会議) 令和6年5月9日(木) 第4回(Web会議) 令和6年9月9日(月) 第6回(Web会議) 令和7年1月10日(金) 第8回(Web会議) 令和7年3月3日(月)
評議員会	第1回(参集・Web会議) 令和6年5月27日(月) 第3回(参集・Web会議) 令和7年3月21日(金)	第2回(参集・Web会議) 令和6年12月4日(水)

## 各大学・短期大学の施設概要

### 日本赤十字 北海道看護大学



住所 〒090-0011 北海道北見市曙町664-1  
 電話 0157-66-3311 URL <https://www.rchokkaido-cn.ac.jp/>  
 施設面積 校地: 59,797m<sup>2</sup> / 校舎等: 16,993m<sup>2</sup>

### 日本赤十字 東北看護大学・同大学介護福祉短期大学部



住所 〒010-1493 秋田県秋田市上北手猿田字苗代沢17-3  
 電話 018-829-4000 URL <https://www.rctohoku.ac.jp/>  
 施設面積 校地: 43,599m<sup>2</sup> / 校舎等: 13,771m<sup>2</sup>

### 日本赤十字 看護大学 (広尾キャンパス)



住所 〒150-0012 東京都渋谷区広尾4-1-3  
 電話 03-3409-0875 URL <https://www.redcross.ac.jp/>  
 施設面積 校地: 18,216m<sup>2</sup> / 校舎等: 15,695m<sup>2</sup>

### (大宮キャンパス)



住所 〒338-0001 埼玉県さいたま市中央区上落合8-7-19  
 電話 048-799-2747 URL <https://www.redcross.ac.jp/saitama>  
 施設面積 校地: 2,704m<sup>2</sup> / 校舎等: 5,361m<sup>2</sup>

### 日本赤十字 豊田看護大学



住所 〒471-8565 愛知県豊田市白山町七曲12-33  
 電話 0565-36-5111 URL <https://www.rctoyota.ac.jp/>  
 施設面積 校地: 19,710m<sup>2</sup> / 校舎等: 17,954m<sup>2</sup>

### 日本赤十字 広島看護大学



住所 〒738-0052 広島県廿日市市阿品台東1-2  
 電話 0829-20-2800 URL <https://www.jrchcn.ac.jp/>  
 施設面積 校地: 29,882m<sup>2</sup> / 校舎等: 19,438m<sup>2</sup>

### 日本赤十字 九州国際看護大学



住所 〒811-4157 福岡県宗像市アスティ1-1  
 電話 0940-35-7001 URL <https://www.jrckicn.ac.jp/>  
 施設面積 校地: 34,456m<sup>2</sup> / 校舎等: 15,097m<sup>2</sup>





## ご支援のお願い

日本赤十字社は、130余年にわたる看護師養成の歴史を有しています。学校法人日本赤十字学園は、医学・医療の高度化に応えられる質の高い看護職・介護職を育成する高等教育部門として、全国各地に6看護大学7学部・6大学院と1短期大学を設置し、赤十字の特色を生かした教育を通して、毎年多くの優れた人材を社会に送り出しています。

看護、介護のプロフェッショナルを育成するためには、教育研究活動のための環境整備及び学生の修学支援体制の一層の充実が必要です。

皆様からのご支援を賜りたくお願い申し上げます。



[寄付方法・税制上の優遇措置についてはこちら](#)

